



三愛病院／老人保健施設 あうん高知

三愛病院

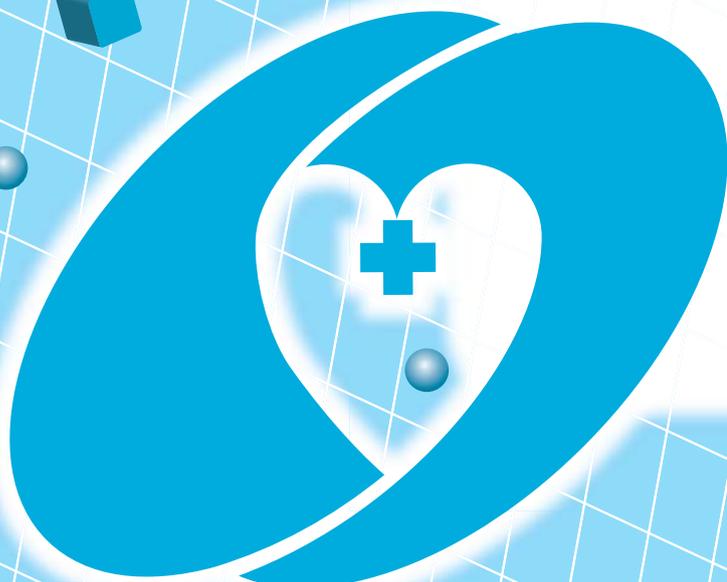
院長挨拶	137
概 要	138
部署責任者一覧	139
医師一覧	139
職員数一覧	139
年次報告	140
診療部	140
看護部	145
医療技術部	149
事務部	155
在宅部	157

老人保健施設 あうん高知

概 要	161
年次報告	161
入所	161
通所リハビリテーション デイケア・ファイト	162

三愛病院／老人保健施設 あうん高知

委員会一覧表	163
委員会年次報告	163
診療実績・業務実績統計	167
院内発表会	173
業績一覧	174
実習・研修生	176



深田 順一



平成28年度、三愛病院グループは、地域の方々にとっての「かかりつけ病院」の機能をさらに推し進めるべく、職員一丸となつての取り組みを続けました。設備面では東館エレベーターの改修を無事終え、本年度特に増加した外来患者さん向けに駐車スペースの拡大、駐輪コーナーの整備を行いました。ソフト面では年度前半に、入院時患者さんにお渡しする「入院案内」と、病院そのものを紹介する「病院案内」を、共に全面的に刷新するとともに、インターネット上の「病院ホームページ」もリニューアルをいたしました。院内業務調整では、医療安全の面では、薬剤に関するヒヤリハット事例を徹底的に分析し、業務の安定化に努めましたし、院外活動としても、昨年度に続き病院としての地域清掃活動への参加を行い、地域貢献の面でも、本院の姿勢の定着を目指しました。

このような背景の下、診療実績は年度単位で昨年度を上回りました。外来診療では、延べ外来患者数が39,800人から46,500人へ16.8%と、単年度としては結構な増加となりましたが、この増加分6,700人の内訳が、森田譲二先生の参加による整形外科3,600人の上乘せにとどまらず、内科2,450人のほか小児科、耳鼻科、皮膚科、婦人科で軒並み患者数の増加が見られたことは大きな収穫と感じています。この傾向は入院診療でも見られ、延べ入院患者数は43,400人から44,500人へと2.5%増加しましたが、これは稼働率ベースで81.3%から83.4%への増加になります。このことは、本院が地域から受ける病院としての評価の面でも改善が得られたものと受け止めています。この要因としては、

1. 安定的な診療を支えるに必須の職員面で、常勤・非常勤を問わず医師スタッフに大きな問題がなく推移し、またコメディカル・事務スタッフでも同様であったこと
2. 深田が着任以来取り組んでいる病院運営の流れの明確化が軌道に乗ってきたこと。例として、院内横断的な各種委員会を活性化し、患者サービス委員会では投書箱の提案から患者駐車場の拡充、自転車駐輪コーナーの整備につなげたことや、ヒヤリハット委員会での事例を通じての業務手順の見直しを手順改定に持ち込み、その改定案を医療安全委員会で承認し、現場に流すという流れが定着しはじめたこと
3. 各部署の活動という面では、これまで職場ごとの年度単位の目標設定とその達成評価を年度の切り替わり時期の運営会議で行っていたが、平成28年度からは、加えて、年度半ばに中間まとめの発表を入れることにした。これにより、意識を持った職場運営がより意識され、それが最終的には病院全体の活性化につながったと感じられること

などが挙げられます。

現在、職員間には一体感、協調感覚、前向き志向、といった言葉が似合いそうなムードが感じられるように思います。職場への信頼・自信に裏打ちされた職場愛、あるいは三愛グループへのロイヤルティーとでも呼べる思いが今後も広がってほしいな、と期待しています。



三愛病院



老人保健施設 あうん高知



グループホームいろは丸と
デイサービスいろは

概要

1. 理念・基本方針

仁生会憲章（三愛病院理念）

- 1) 私達は 限りない愛情と責任をもって 常に最善をつくします
- 2) 私達は 自己研鑽にはげみ 人々から愛される病院づくりを目指します
- 3) 私達は 常に和を大切に職場の規律を守り 病院の健全な発展に努めます

三愛病院の基本方針

私達は、仁生会憲章に基づき、安全で適正な質の高い医療および療養環境を提供します。
また、最新の保健医療動向に取り組み、健康増進・予防対策の観点から、地域ニーズに適切適時対応します。
さらに、地域の声を医療活動に反映させていきます。

患者さまの権利5カ条

三愛病院のすべての患者さまは、以下の5カ条の権利を有します。

- 1) 良質の医療を継続して受ける権利
- 2) 治療に関して、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 3) 十分な説明を受け、自らの治療を選ぶ権利
- 4) 意識のレベルに関わらず、尊厳を守られる権利
- 5) 個人情報保護される権利

2016年度 看護部門目標

看護部理念

一期一会の精神で真心を込めた看護・介護を提供する。

看護部方針

1. 地域住民の『健康増進』のため、社会支援活動を積極的に行う。
2. 当院を訪れるすべての患者に寄り添い、看護の力を最大に発揮する。
3. 患者の人権と権利と尊重し、安全で最適な療養環境と質の高いケアを提供する。
4. 専門職としての責任を果たすため、研鑽を重ね常に最新の知識と技術を習得する。
5. チーム医療での治療効果を最大に発揮できるようチームの調整役となる。

2. 施設とその内容

①施設面積、建物面積

敷地面積：3,877.69㎡ 建物面積：1,559.73㎡

②施設の内容（各階の目的、機能別）

1 F	外来診療部門、医療技術部門、在宅部門、事務部門
2 F	愛1病棟 障害者施設等入院基本料 10対1 特殊疾患入院施設管理加算
3 F	愛2病棟 障害者施設等入院基本料 10対1 特殊疾患入院施設管理加算
4 F	愛3病棟 介護療養型病床

3. 標榜科目

内科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科（美容）、リハビリテーション科、放射線科、精神科、婦人科

4. 許可病床数

146床 愛1病棟 53床 愛2病棟 45床 愛3病棟 48床

部署責任者一覧

平成29年 3月31日現在

院長	深田 順一
副院長	坂本 賢司
診療部	
医局長	橋詰 稔
内科科長	中川 治
放射線科科長	岩井 智郎
看護部	
看護部長	元吉 ひとみ
愛1病棟看護師長	戸田 里子
愛2病棟看護師長	谷山 智砂
愛3病棟看護師長	中平 好昭
外来看護師長	濱名 郁里
在宅部	
居宅介護支援事業所「一宮」管理者	和田 真樹
ホームヘルプステーション高知主任	野町 喜代
グループホームいろは丸管理者	森岡 明美
デイサービスいろは管理者	竹口 伸也
高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所	中司 梓
老人保健施設あうん高知	
施設長	細木 秀美
副施設長	小松 雅理

入所主任	嶋崎 由季
入所主任	猪崎 優子
入所主任	森中 美緒
通所主任	竹中 誠
医療技術部	
薬剤室室長	小野 正英
放射線室室長	池 三二雄
臨床検査室室長	栄田 美智子
リハビリテーション課課長	門脇 貴代
理学療法室主任	濱田 くるみ
作業療法室主任	竹倉 佐和子
言語聴覚室主任	谷口 桃子
栄養管理室主任	石山 由香
医療相談室主任	澤田 恵里
事務部	
事務部長	桐生 剛
副事務部長	竹垣 康幸
総務課主任	大山 裕
総務課主任	鳴瀧 有人
総務課主任	小松 美紀
医事課主任	百田 知佐子
医事課主任	葛目 里香

医師一覧

平成29年 3月31日現在

内科	細木 秀美
	深田 順一
	坂本 賢司
	中川 治
	篠原 雅幸
	小野寺 真智
	上岡 悦子 (非常勤)
	岩崎 泰正 (非常勤)
	上村 千鶴子 (非常勤)
	高田 浩史 (非常勤)
	辻 希美子 (非常勤)
	梅下 会美 (非常勤)
	青山 夏希 (非常勤)
	高松 和史 (非常勤)
	市川 麻由 (非常勤)

小児科	橋詰 稔
	石原 正行 (非常勤)
	浦木 諒 (非常勤)
耳鼻咽喉科	市川 利恵
	池永 弘之 (非常勤)
放射線科	岩井 智郎
形成外科	三好 みちよ (非常勤)
婦人科	相良 祐輔 (非常勤)
皮膚科	池田 光徳 (非常勤)
	森田 穰二 (非常勤)
	泉 仁 (非常勤)
	南場 寛文 (非常勤)
整形外科	五十嵐 陽一 (非常勤)
	山崎 信保 (非常勤)
	須賀 楓介 (非常勤)
外科	山崎 信保 (非常勤)
不眠外来	須賀 楓介 (非常勤)
もの忘れ外来	上村 直人 (非常勤)

職員数一覧

平成29年 3月31日現在

医師	12	臨床検査技師	3	技能員	6
看護師	79	理学療法士	10	薬剤助手	1
准看護師	18	作業療法士	4	理学療法助手	2
看護補助者	31	言語聴覚士	3	保育士	2
介護福祉士	66	ソーシャルワーカー	6		
薬剤師	3	管理栄養士	2		
診療放射線技師	2	事務員	24		
				計	274

細木病院

細木ユティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

診療部



内科

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 外来診療面では内科全般に対応できる体制が維持できている。需要が増え続ける高齢者の糖尿病治療については、本院の姿勢が、徐々に地域に浸透しつつあることが感じられ、他院から本院にかかりつけ医の変更を希望される患者さんが引き続き見られた。消化器疾患は小野寺医師を中心として昨年同様の診療レベルが維持できており、呼吸器疾患は高知大学の呼吸器・感染症内科からの支援が得られている。循環器領域では年度当初から軌道に乗った心エコー検査の検査実績が挙がりつつある。そのほかの専門外来として内視鏡外来のほか、肥満外来、禁煙外来、漢方外来も維持できている。このような体制を反映してか、資料編にあるように、内科外来患者数は年度当初から1年を通じて昨年度を上回る伸びを見せており、診療単価も横ばいのレベルで推移している。
2. 入院診療では病棟構成の基本構造は変えず、愛1病棟53床、愛2病棟45床は障害者施設等一般病床、愛3病棟48床は介護療養型病床として運用した。入院患者数は、これも資料編にあるように総数では、年度初めは例年を下回る水準であったが、年度半ばからは月単位で前年を上回るレベルで推移し、結果的に年度単位でも、昨年実績を大きく上回ることとなった。病棟別では愛1、愛2、愛3すべてで年度後半からの入院者数の増加傾向が見られ、29年2月には3病棟合計の月単位の稼働率が90%に達し、年間を通じても83.4%

と、昨年度を2.1%上回る数字で終わることができた。

②今後の課題

平成29年度の課題は、一言でいえば、現在、我々が地域から得ている信頼・期待に応えて日々の診療を、これまで通り、着実に遂行していくとともに、来るべき診療報酬制度改定にも対応できる形を、徐々に整えていくことである。特に介護療養型病床の後の形については、その具体像を早く明確にし、職員のみならず、現在入院中であるか否かを問わず、本院に期待されておられる患者さん・ご家族の皆さんに安心いただけるよう、努めていきたいと考えている。

③常勤医師の氏名

深田 順一
坂本 賢司
中川 治
篠原 雅幸
(平成26年4月1日～平成29年3月31日)
小野寺 真智

④非常勤医師の氏名

細木 秀美
上岡 悦子
上村 千鶴子
高知大学医学部 派遣医師
岩崎 泰正

高田 浩史
(平成26年4月1日～平成29年3月31日)
辻 希美子
(平成28年5月20日～平成29年3月31日)
梅下 会美
(平成27年7月31日～平成28年5月13日)

青山 夏希
(平成27年4月3日～平成29年3月31日)
高松 和史 (平成28年4月1日～)
市川 麻由 (平成28年7月7日～)

(文責：院長 深田 順一)



小児科

①活動内容・目標に対する達成状況

一次診療、地域診療を中心とした外来診療を継続している。

平成28年度の患者数は昨年度比0.1%増とほぼ横ばいであった。インフルエンザの流行は例年通りで総数はほぼ前年どおりである。

小児保健関連では、地域の保育園健診(一宮保育園、東山保育園、あゆみ保育園)、幼稚園健診(一宮幼稚園)小学校健診(一宮小学校)と、赤ちゃん会に参加した。病後児保育は増加傾向である。また、高知市医師会の夜間休日時間外診療にも参加している。

②今後の課題

患者数に関しては、近隣小児科の閉鎖に伴う患者増

がなくなり横ばいとなった。地域の子ども数は7、8年くらい前から減少している。地域外の患者獲得と、予防接種、乳児健診などの小児保健領域の充実が必要と考える。

③常勤医師の氏名

橋詰 稔

④非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師：石原 正行
浦木 諒

(文責：医局長 橋詰 稔)



耳鼻咽喉科

①活動内容・目標に対する達成状況

- 耳鼻咽喉科一般外来を行っている。院内他科や他院からの紹介も増えており、昨年度と比較し延べ患者数が106%とやや増加している。
- 平成27年に開始した補聴器外来では、平成27年度延べ人数71人から平成28年度108人と増加しており、徐々に周知されてきたと思われる。

②今後の課題

- 小児患者では圧倒的に中耳炎・鼻炎・副鼻腔炎などの感染症による受診が多いのに対し、成人患者では難聴・めまい・鼻出血・副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎・咽喉頭異常感など多彩な症状で受診されている。引き続き、感染症のコントロールにも注意しつつ、多彩な疾患にも対応し、手術適応がある場合やリスクが高い場合には迅速に他院への紹介を検討したい。

- 補聴器外来を含め、外来患者のニーズに応えられるように、今後も努めたい。

③常勤医師の氏名

市川 利恵

④非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師
吉田 真夏
(平成27年11月21日～平成28年8月31日)
池永 弘之
(平成28年1月8日～平成29年3月31日)
伊藤 広明
(平成28年4月1日～平成28年8月31日)

(文責：常勤医師 市川 利恵)



放射線科

①活動内容・目標に対する達成状況

- 当科では、単純撮影画像やCT画像の読影、超音波検査、上部消化管透視、健康診断での診察の業

務を行っている。生活習慣病予防健診の実施件数が維持できていることにより消化管透視の実施件数がわずかながら伸びている。

2. 生活習慣病予防健診や企業健診に伴う読影、診察件数が維持できている一方で、超音波検査の実施件数は、心エコー検査を実施し始めたにもかかわらず減少した。これは業務増加により、特定健診受診者への腹部超音波検査の実施のサービスをしたことによるものと思われる。

②今後の課題

1. 健診室の利用者が維持できているのは喜ばしいことであるが、その一方で、画像ができてから読影が終了するまでに時間を要するようになっている。読影の質の向上と時間の短縮の両立に努力するので各方面のご理解をいただきたい。

2. フィルムレスシステムを構築してからほぼ9年が経過している。また、胃透視検査もフィルムベースでの実施が続いている。幸いにも、現在は順調に稼働しているが、近い将来、更新を要すると思われる、経済性を考慮しながら、検討していきたい。

③常勤医師の氏名

岩井 智郎

④非常勤医師の氏名

なし

(文責：科長 岩井 智郎)



形成外科

①活動内容・目標に対する達成状況

形成外科では美容を主とした外来診療と病棟の褥瘡・外傷診療を担当している。非常勤のため、外来業務時間内に病棟の褥瘡・外傷処置も行っている。美容はリピーターが多く、希望日時に予約が入らないこともある。病棟褥瘡に関して、発生率・治癒率ともに目標達成した。今後も早期発見・早期治療に加え、早期治癒を目指していきたい。

②今後の課題

美容外来数は季節や曜日による変動が大きい。一方

で褥瘡・外傷は一定数を保っている。

両者の診療を限られた時間内でバランスよく行うことが今後の課題である。

③常勤医師の氏名

なし

④非常勤医師の氏名

三好 みちよ

(文責：非常勤医師 三好 みちよ)



婦人科

①活動内容・目標に対する達成状況

平成28年度における外来で取り扱った対象は、排卵異常、子宮がん検診、思春期管理、ストレス症候群、更年期管理、入院中の患者さんの婦人科疾患合併症ですが、他院での診断・治療方針への確認・助言が2例ありました。

特に、この確認・助言を求められた2例を報告する意味は、深田院長先生から、「セカンド・オピニオン外来」を実施できないかとのお話をいただいたこともあって、特記しました。

②今後の課題

セカンド・オピニオン外来の開設は、経済効果拡大もさることながら、その病院に対する、患者さんの信頼の高さを意味づけるものだと考えます。深田院長先生もきっとこの意味合いからのご発想であったであろうと考えております。

この外来の開設を、より多くの人々に知っていただき、安心して医療を受けるために利用していただければ、と考えます。

そのためにも、より積極的な広報の展開をお願いしたいと希望します。広く周知されるほど、本院のオンリーワンとしての存在が県民に一層よく理解され、医療に対する県民の目を大きく変え、本院への期待もさらに増すものと考えます。

③常勤医師の氏名

なし

④非常勤医師の氏名

相良 祐輔

(文責：非常勤医師 相良 祐輔)



皮膚科

①活動内容

土曜日の午前中に、外来診療を行っている。月当たりの開設回数は2～4回程度である。
予約枠を36設定して、患者さんの便宜を図っている。

②常勤医師の氏名

なし

③非常勤医師の氏名

高知県立大学 派遣医師：池田 光徳

(文責：非常勤医師 池田 光徳)



整形外科

①活動内容・目標に対する達成状況

外来診療は毎日午前中で、月・火・土は高知大学医学部整形外科の派遣医師が交代で、水・木・金は森田 穰二が担当している。

2016年3月より外来診療が毎日できる体制になったので、地域医療に多少とも貢献できるようになった。

②今後の課題

外来診療は主治医制なので、患者の急な変化に対応しきれない点。

③常勤医師の氏名

なし

④非常勤医師の氏名

森田 穰二（平成28年3月2日より）

高知大学医学部 派遣医師

南場 寛文

（平成27年4月7日～平成29年3月31日）

田所 伸朗（～平成28年9月30日）

泉 仁（平成28年10月1日より）

高屋 将悟

（平成28年4月1日～平成28年7月31日）

五十嵐 陽一（平成28年8月1日より）

(文責：非常勤医師 森田 穰二)



精神科

①活動内容

高知大学医学部精神科医局より、須賀楓介す が ようすけが不眠外来として1カ月に4回（第1・第3金曜日午後と第2・第4土曜日午前）、また、上村直人かみむらなひとがもの忘れ外来として毎週木曜日午前に診察している。同時に、入院患者、および介護老人保健施設あうん高知の入所者の精神症状の見られる方の診療にも当たっている。

②常勤医師の氏名

なし

③非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師：上村 直人

高知大学医学部 派遣医師：須賀 楓介

(文責：非常勤医師 上村 直人)



外科

①活動内容・目標に対する達成状況

平成22年より、月に2回程度、ペグの管理と交換および気管切開患者の挿管管理とカニューレ交換を担当している。現在は、外科としての外来診療は、休診中である。

②常勤医師の氏名

なし

③非常勤医師の氏名

山崎 信保

(文責：非常勤医師 山崎 信保)



健診室

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 生活習慣病健診は達成率98.7%で、目標の300件まであと4件届かなかった。昨年同様、職員健診受診者数は少なかったものの、企業健診受診率は344件で11%増えており、次年度は目標達成できるのではないかと思います。
2. 特定健診では、無料付加サービス（胸部レントゲン・腹部エコー）が終了となったものの、件数自体は13%増えていた。大きな混乱はなかったようだが、予約の際に残念がる声が多く、付加検査のために市外から来ていた方などキャンセルとなる方もいたが、中にはオプションとして受けてくださる方もいた。
今年度は、特定健診に人間ドックをプラスして受けられる方が増えており、人間ドックは昨年の4

件から11件（うち特定セット8件）と増加していた。

②今後の課題

1. 生活習慣病健診（協会けんぽ）受診者数 300件
企業健診（特定健診）受診者数 350件
2. 人間ドック 15件

③常勤医師の氏名

岩井 智郎

④非常勤医師の氏名

なし

（文責：健診室 板原 身貴）

📁 看護部

①概要

看護部長：元吉 ひとみ
医局秘書：竹倉 恵

②平成28年度 目的・目標

看護部門理念：一期一会の精神で真心を込めた看護・介護を提供する

1. 地域住民の『健康増進』のため、社会支援活動を積極的に行う
2. 当院を訪れるすべての患者さんに寄り添い、看護の力を最大に発揮する
3. 患者さんの人権と権利を尊重し、安全で最適な療養環境と質の高いケアを提供する
4. 専門職としての責任を果たすため、研鑽を重ね常に最新の知識と技術を習得する
5. チーム医療での治療効果を最大に発揮できるようチームの調整役となる

③目標に対する取り組み

これまでの入院は、急性期病院などでの治療を経て引き続き療養を必要とする患者さんを対象として受け入れを行ってきた。今年度は地域の方々へ入院を通してより身近に感じていただけるよう、一部病室の改修を行い積極的に外来からの入院受け入れを行った。そして地域の方々にも当院を利用していただき、地域へ貢献することができる体制となった。

入院患者さんの対象が広がったことに加え、積極的に受け入れを行った結果、延べの入院患者数も大幅に増加した。それぞれの患者さんの背景や抱える課題も



複雑となり看護や介護の職員も認知症患者さんへの対応など、より一層の研鑽を行った。また、最良のケア提供を行うべく、チーム連携を図るなど充実した年となった。

また、地域へと退院される患者さんのご自宅訪問を通して地域連携の強化など、当院の新たな課題も明らかとなった。

④次年度の課題

今後は地域との強いつながりを持てるよう、積極的に地域活動を行っていきたい。

また平成29年度は厚生労働省が進める「地域医療構想」への最終段階を迎える。地域にとっての当院のあり方を決定し、実行につなげる重要な1年となるため、看護部門全体で「地域にとって三愛病院がどうあるべきか」を提案していかなければならないと考えている。

(文責：看護部長 元吉 ひとみ)

🏠 愛1病棟

①概要

病棟形態：障害者施設等基準病棟
(10対1入院基本料)

病床数：53床

所属長名：戸田 里子

構成職員：看護師 18名
准看護師 2名
介護福祉士 2名
看護助手 4名
クラーク 1名
合計人数 27名



できる

②平成28年度 目的・目標

1. 関係部署との連携を密にし、障害病棟の役割を果たす
2. 看護の質を高め、個別性のある最善のケアが提供

③目標に対する取り組み

1. 稼働率については、平成28年3月より増床した自立患者用フロアの多床室2室をCランク患者対応としたことで稼働率が上がった。しかし教育入院

や検査入院など短期の入院ケースが少なく自立患者用フロアの空床の時期が続き、平均稼働率71%と目標の75%を達成できなかった。障害率については、一時的に70%台に低下することがあったが、他部署との調整や関係部署との連携による退院支援を行うことで平均障害率81%と高めに保つことができた。その結果、対象外患者の受け入れもスムーズにできた。

中には、障害対象外患者の退院支援において、調整が長引いたケースもあり、独居患者の退院支援の困難さを実感した。今後は、いろいろな想定をすることで退院先が広がるように関係部署と連携を図り、患者にあった退院支援を行っていく。

認知症ケア加算などの新設加算については、スタッフ周知のため勉強会を開催し、適正に評価できるように努めた。

- 患者個々にあったケア提供のために、事前に患者、家族の希望の確認やリハビリ室など関係部署と情報交換を行い、ケアカンファレンスを開催しP D C Aサイクルを回すことができた。業務多忙

時には実施できない日もあったが、基本毎日開催する姿勢は意識としてついている。

受け持ち看護師の役割について見直しと周知を行い、受け持ちとして患者、家族とコミュニケーションを密に図り希望の聞き取りとケアへの反映ができるようにした。しかし、スタッフ個々によって差があるため、リーダーと協力し満足度の高いケア提供ができるようにしていく。

自己研鑽については、個人差が大きく個人目標の研修時間をクリアしたスタッフは少なかった。院外だけでなく院内の研修にも参加できるように調整をしていく。

4 次年度の課題

- 関係部署と連携を密にし、障害病棟としての役割を果たす
- 看護の質を向上させ、個別性ある最善のケア提供ができる

(文責：看護師長 戸田 里子)

愛2病棟

1 概要

病棟形態：障害者施設等基準病棟
(10対1入院基本料)

病床数：45床

所属長名：谷山 智砂

構成職員：看護師	23名
准看護師	3名
介護福祉士	3名
看護助手	3名
クラーク	1名
合計人数	33名



2 平成28年度 目的・目標

- 障害病棟としての基準が維持できる
- 患者サービスの質を高め、患者満足の向上に努める

3 目標に対する取り組み

- 平均稼働率は87.6%で昨年より4ポイントアップしている。相談会や個別相談での入院受け入れを積極的に行い10月以降は90%を超えることができた。

障害率の平均は79.2%だった。日常生活Bランクや経口摂取の患者が多くなり、障害率は4ポイント下がっているが目標値(75%以上)は達成できた。

障害病棟としての施設基準については、診療報酬の勉強会を行ったことや、ホワイトボードに障害

率を表記することでスタッフの意識は高まっている。障害基準だけでなく、医療区分算定対象者や認知症加算、準超重症者加算についても知識を膨らませていきたい。

- リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、チームケアが実践できるように努めた。

情報共有のため看護記録を充実させるとともに、入院後1週間以内に病棟での入院カンファレンスが実施できるようにマニュアルを作成した。退院前後自宅訪問は、導入に際しての試験ケースを含め6件実施することができた。

退院後訪問は、自宅での生活状況を確認するだけでなく、改修工事・指導内容の評価や今後の訪問指導の参考にしていきたい。

ヒヤリハット件数は93件で前年度より25ポイント減少している。皮膚剥離や与薬に関する件数が減少しており、スタッフの努力の結果である。転倒に関しては前年とほぼ同数であるが、リスクの高

いA・Bランクの患者が増加しており、ベッド配置やコールマットなどの対策効果は得られてると考える。必要時はカンファレンスを実施し再発予防に努めた。来期からは、すべてのケースでカンファレンスを行うように、記録用紙・マニュアルを作成中である。

働きやすい職場環境を目指し、スタッフ間での協力・支援を行っている。新入職者に対しても早く職場に馴染めるように配慮をしている。プリセプ

ターだけでなくスタッフ全員が、思いやりや支えあう心を持ってコミュニケーションをとり、より良い職場にしていきたい。

4次年度の課題

1. 障害病棟としての役割を果たす
2. 看護の質を高め、患者満足の上向上に努める

(文責：看護師長 谷山 智砂)

愛3病棟

1概要

病棟形態：介護療養型医療施設
(療養機能強化型A)

病床数：48床

所属長名：中平 好昭

構成職員：看護師	9名
准看護師	2名
介護福祉士	9名
看護助手	4名
介護支援専門員	1名(看護師)
クラーク	1名
合計人数	26名



ように状態変化に合わせた業務改善に取り組んでいく。

2. 毎日ショートカンファレンスの開催をし、年間を通してケア検討で決定した事項の周知や評価、各委員会のマニュアル周知の場とすることができた。また、患者の病状変化時には適宜状態報告することが徹底でき、状況に応じたサービスの提供が行えた。退院調整は、患者層の変化により、在宅への調整ができた患者は1名のみであった。地域との交流は、小学校音楽会に患者の見学参加や一宮ふれあいまつりに患者作品の展示および健康相談コーナーへの職員参加ができた。
3. 前年度より、全体的に研修参加者は増えている。特に他部署勉強会には、全スタッフが目標としていた1回以上の参加ができた。院外研修への参加は全体的に少なく、個人差が見られている。個別対応や研修の情報提供の工夫、業務調整が課題である。

4次年度の課題

1. 病棟基準(療養機能強化型A)の維持
2. 看護・介護の力を発揮しサービスの質を高める

(文責：看護師長 中平 好昭)

2平成28年度 目的・目標

1. 入院稼働率を95%に引き上げ、維持する
2. 看護・介護の力を発揮しサービスの質を高める
3. 自己研鑽

3目標に対する取り組み

1. 平成28年度の平均稼働率は91.8%、平均入院患者数44名であった。療養機能強化型Aの重度者割合・処置実施割合は要件の50%を保つことができた。看取り対象割合は、4月～5月に退院が重なり、要件の10%割れとなったが、6月に当病棟での看取り希望の家族に説明と意向確認を行い、以降は要件を満たすことができた。空床時のショートステイ受け入れも継続して行えた。ハード面では前年度課題としていたミキシング室、全病室中央配管の設置はできていない。医療依存度の高い入院患者の増加にともない、9月から1月まで愛2病棟看護師に深夜帯の業務協力を受け、2月からは看護師の3時出勤勤務を導入し対応している。病棟再編も視野に入れ、円滑な対応ができる



外来・中央材料室・病後児保育室「愛あいルーム」

①概要

所属長名：濱名 郁里

構成職員：看護師 11名（1名健診兼務）
 准看護師 2名
 看護助手 2名
 保育士 2名
 事務員 1名（健診担当）
 合計人数 18名



②平成28年度 目的・目標

1. 地域に根差した外来看護サービスの提供
2. 人材育成
3. 患者満足度の向上

③目標に対する取り組み

1. ①一昨年から退院時カンファレンスや、在宅患者のサービス担当者会などに積極的に参加を行ってきたが、今年度からは退院前訪問指導・退院後訪問指導を開始し、多職種で訪問指導を行うことで円滑な在宅療養への移行や在宅療養の継続ができるよう患者・家族への指導を行っている。
 また、地域の活動として毎年「しなね祭り」での健康相談コーナーや、糖尿フェアの開催などを行い地域の方から好評を得ている。
- ②病後児保育室では新しい取り組みとして、年間4回近隣の保育所や幼稚園、子育て支援センターなどに季節の情報提供を文書で発行した。その効果もあったためか保育実施日265日、延べ利用児数694名（前年度比115%）であり、高知市より補

助金も交付していただいた。次年度は保育士の増員と保育環境の充実を予定している。

2. 外来スタッフは毎年多くの院内外の研修会に参加し自己啓発を行っている。学会への演題登録、発表も積極的に行っており、今年度は3つの学会で発表を行うことができた。
3. 日々、待ち時間短縮のための対策や接遇などを念頭に置き業務に当たっている。年々外来患者数は増加しているが、待ち時間に対する大きなクレームは発生していない。受付や検査の待ち時間と合わせると長くなることもあるため、他部署との調整・連携が必要である。

④次年度の課題

1. 地域に根差した外来看護サービスの提供
2. 人材育成
3. 患者満足度の向上

（文責：看護師長 濱名 郁里）

薬剤室

1 概要

所属長名：小野 正英
 構成職員：薬剤師 3名
 事務員パート 1名
 合計人数 4名

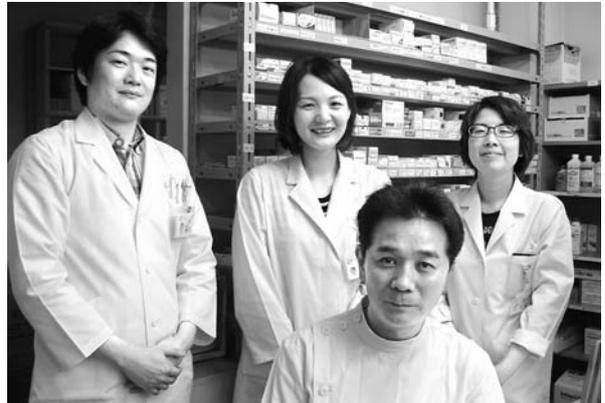
2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 人材の育成

薬剤室の目標は「全員が持てる力を発揮する・発揮できる組織にする」とした。このような型で表すことで、薬剤室の一人ひとりが自覚を持って仕事を行えたように考える。また、その結果、調剤ミスおよび監査ミスは、ほとんど発生しなかった。さらに、平成28年度の月あたりの残業時間は、3～4時間に減少した。

2. 薬剤の保管・管理の検討

医薬品の採用品目は約800品目で、このうち20.8%が後発医薬品である。後発医薬品の使用率は平成27年度が38.1%であったが、平成28年度は56.1%となり、60%を超える可能性が出てきた。SPD在庫システムは6月より導入した。今までは、発注者の感覚で発注数量を決めていたが、パソコンを使用して出庫数が計算されることから、過剰在庫が減少した。



3 今後の課題

1. 薬剤室では後発医薬品の使用率を上げるために、院内採用薬の後発医薬品のリストを作成した。また、先発医薬品が処方された場合、疑義照会を行い後発医薬品に変更してもらうようにしたことから、後発医薬品の使用率が上昇したと考える。
2. 後発医薬品の使用率を上げることに注目し、後発医薬品と同種薬の先発医薬品を削除することを行った。この結果、採用品目数が、さほど減少しなかった。今後、医薬品採用申請書が提出された場合、同効薬への変更および後発医薬品への変更を、お願いしたいと考える。

(文責：室長 小野 正英)

放射線室

1 概要

所属長名：池 三二雄
 構成職員：診療放射線技師 1名
 合計人数 2名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 院長の要請により、準備を進めていた心エコーの検査が、5月より始まった。

新しい検査であるため、今後、創意工夫により、検査精度の向上が望まれる検査である。

2. 一般撮影件数の増加を目標としていたが、昨年、今年と順調に増加し、一昨年の件数の1.5倍ほどに増加した。その他の検査は少々減少傾向であるが、中でもエコーの検査は半減しているが、これは特定健診のサービス検査が終了したことによる減少であり、外来の検査が減ったわけではない。



また、それとともに健診の撮影件数も減少している。

3 今後の課題

1. CTは2014年の3月に現在の機種に更新してからの、撮影件数は順調に増加していたが、今期は前期の5%ほどマイナスとなった。これといった原因は見当たらない、各診療科からの依頼が減って

いたようだ。外部からの依頼は昨年とほぼ同等に約30%で推移している。

2. USは特定健診のサービス検査が終了したため、特定健診の件数分が減少となった。5月より始まった心エコーは36件の依頼があった。
3. 一般撮影は整形の件数増加とともに、撮影件数は増加しており、昨年目標をクリアできた。今後もこの件数を維持していけるように努力したい。

4. 透視装置について、現在の自現機・フィルム系の装置では性能維持のため、撮影がなくても維持費が必要であり、健診の胃透視撮影をすれば、また、さらにフィルム代が加算されるため、それぞれが持ち出しとなる。できるだけ早い段階でデジタル化が望まれる。

(文責：室長 池 三二雄)



臨床検査室

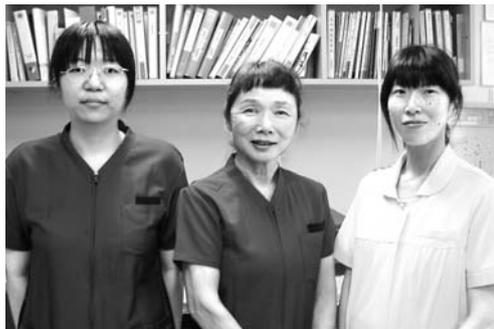
①概要

室長：栄田 美智子

構成職員：臨床検査技師 3名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 業務の効率化を図りつつも、検診や生理検査の突発的な発生により、計画的な業務進行ができない場合が発生している。
外来に続き病棟の検査依頼書前日入力、バーコード付スピッツ作成により、検査室および外来、病棟での業務の効率化は、大きな成果を上げている。
2. 検体採取に関する研修を全員が終了し、実施している。しかし、以前に比べ外部での研修、学会などに参加する回数が減少している。
3. 委員会活動においては、データのまとめ、褥瘡回診参加など積極的に行っている。
4. マニュアルの見直しは、継続的であり徐々に完成しつつあるが、集中して取り組めないのが現状である。



化ではなかったが、平成27年度に大きく増加していることを考慮すると、順調な伸びだと考える。今後は、安全に迅速なデータを提供するために余裕のもてる環境を確保していきたい。

2. 今年度途中から技師1名が産休・育児休暇に入る予定になっており、この間の業務に支障を来さないように、代行の技師にしっかりと指導する。
3. 減少している研修・学会への参加に力をいれ、常に新しい情報や技術を習得していく。
4. マニュアルの見直しにおいては、関わる他部署ともリンクできるものに仕上げたい。

(文責：室長 栄田 美智子)

③今後の課題

1. 検査件数は、全体では前年度比102%と大きな変



栄養管理室

①概要

主任：石山 由香

構成職員：管理栄養士 2名

委託：富士産業株式会社（給食業務）

②活動内容・目標に対する達成状況

1) 活動内容

- ・栄養ケア・マネジメント加算の実施
- ・栄養指導
- ・病棟カンファレンスの参加
- ・実習・研修受け入れ
- ・講師活動
- ・嚥下検査食（VE検査・VF検査）の提供
- ・各種委員会の参加



・グループホームいろは丸 料理教室

2) 目標に対する達成状況

【目標】

- ①栄養ケア・マネジメントの実施

- ②栄養指導件数の増加を図る
- ③入院時の食事内容の聞き取りを行う
- ④研修会など積極的に参加し、自己研鑽に励み日々の業務に活かす

【達成度】

- ①三愛病院介護病棟およびあうん高知では患者さまおよび入所者さまの状態に応じた食事提供を行うため、多職種協同でカンファレンスなどを行い栄養状態の改善に努めた。
- ②外来および入院患者さまに対して糖尿病や脂質異常症などの栄養指導は昨年度と比べ増加している。また、10月に開催された「さんあいフェア」では糖尿病の患者さまに対してお弁当を提供し食事のバランスなどについて指導を行った。在宅訪問では、グループホームいろは丸八月2回の料理教室を兼ねた食事指導も行った。

- ③入院時に食事内容や形態・アレルギー食品などの聞き取りを行い、専門的な観点から病状に応じた食事提供に努めた。
- ④院内外研修会には積極的に参加し新たな知識・アイデアなどを得ることができ、患者さまの治療に貢献し、信頼と満足を得られるよう努めている。

③今後の課題

給食業務委託会社と協力しながら入院患者さまや入所者さまが喜んでいただける食事の提供に努める。また、入院患者さまの多くが高齢者であり、身体の器官や機能が衰えるため患者さま一人ひとりの身体機能に応じた食事提供が行えるよう、今後も学会や講習会・研修会に積極的に参加し自己研鑽に努める。

(文責：主任 石山 由香)



リハビリテーション課

①概要

課長	門脇 貴代
理学療法室主任	濱田 くるみ
作業療法室主任	竹倉 佐和子
言語聴覚室主任	谷口 桃子
構成職員	理学療法士 9名
	作業療法士 4名
	言語聴覚士 3名
	リハビリ助手 1.5名
	合計人数 17.5名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 内外への連携の努力

- ①院内連携
 - ・入院時より、個々の患者の方向性をイメージした対応の共有の確立を目指し、入院後1週間以内の病棟カンファレンスに多職種が参加し協議する態勢の開始
 - ・数年来取り組んできたICF理念の活用
- ②院外連携
 - ・退院にあたっての後方支援に関わる提案と準備の実施
 - ・訪問リハビリを起点とした外部事業所との情報交換の開始
- ③地域連携
 - ・一宮地区コミュニティとの連携を深め、介護予防事業の協働に着手

2. スキルアップへの努力

- ・年間1回以上の外部研修への参加の全員実施
- ・日本糖尿病学会 中四国地方会における演題発表

3. 採算性への努力

- ・施設基準変更による減算があるも、前年比94.7%とした
- ・各部署との連携と確実な書類作成などの努力による加算の獲得

③今後の課題

次期改正に向け、アウトカムと地域連携に向けた体制の構築が必要とされる中、連携とそれに必要な思考の組み立てに取り組んできた。旧態依然の受け身の思考やその場しのぎの内容からの脱却を目指し、今後も継続して取り組んでいく。

また、訪問リハビリの拡大は急務であり、職種ならびに人員の増加に努力する。合わせて地域との協働事業としての介護予防の取り組みを本格化していくなど、長期的・継続的なプランのもと実行に努力していく。

(文責：課長 門脇 貴代)



理学療法室

1 概要

主任：濱田 くるみ

構成職員：理学療法士 9名

(うち あうん高知入所 2名、
通所 1名)



2 活動内容・目標に対する達成状況

◎予防理学療法への取り組み

地域の方への講習会の開催などのアナウンス、データ分析と目標を掲げていたが、平成28年度は実施には至らなかった。しかし院内外の勉強会や研修会、学会への参加および発表を行うことで、個々のスキルアップは図れた。

老健施設では取り組みを強化しているFIMについて、入所家族への説明を行い、実際施設内へデータを貼り出し、可視化した。

また病院ホームページの充実を図り、リハビリテーション課のタイムリーな取り組みのアナウンスを行えるようにした。

地域の方の健康チェック、健康相談などを行い、健康への意識を高めてもらう。また同時に三愛病院を改めて地域の方々に認知していただく。

2. テーマを掘り下げた学習、勉強会の実施

今年度も引き続き、個々のスキルアップに向けた学習、研修会への参加を行っていくが、得た知識や情報を部署内で共有できるよう、伝達講習などの開催を行っていく。来る平成30年度の医療・介護報酬改定に向け、知識や意識の平準化にも力を入れていく。

3 今後の課題

1. 一宮地区健康づくりへの参画

昨年度目標に掲げていた地域の方の介護予防事業への参加を積極的に行っていく。

(文責：主任 濱田 くるみ)



作業療法室

1 概要

主任：竹倉 佐和子

構成職員：作業療法士 4名(うち産休 1名)

2 活動内容・目標に対する達成状況

1) 採算性への努力

OT 1名の退職と産休があり11月より2名体制という厳しい状況となっていたが、PT、STの協力もあり何とか乗り切ることができた。2月には1名の就職があり現在は3名体制となっている。

2) 個々の専門性のスキルアップ

専門資格の取得について、OT全員が福祉住環境コーディネーター2級を取得した。足潰瘍や認知症、MTDLPなどのさまざまな分野の勉強会に各自が参加した。

3) ADL、IADL訓練の充実と病棟への汎化

患者の重症化に伴い食事、排泄場面への介入が減っている一方、ポジショニングや移乗介助方法の相談が増えており、病棟との連携の機会も増えている。



4) 地域との連携強化への取り組み

一宮コミュニティ主催の認知症カフェにOT 2名が参加し、寸劇などの企画に携わった。また、認知症カフェについての勉強会や他事業所のカフェの見学も行った。

3 今後の課題

部署目標ともなっている地域連携について、今後は一宮地区の介護予防教室や地域活動に積極的に参加

し、関係性を構築していくことが重要である。4月からは訪問リハビリ（OT）を立ち上げる予定であり、専門性をアピールし利用者の獲得を図ることが課題である。また、OT 1名増員予定であり、人員充足によ

るさらなる職域の拡大と質の向上が望まれる。

（文責：主任 竹倉 佐和子）

言語聴覚室

①概要

所属長名：主任 谷口 桃子
構成職員：言語聴覚士 3名
合計人数 3名
（うち1名、平成28年11月まで育休）



②活動内容・目標に対する達成状況

①嚥下機能検査の定期的な施行に向けて取り組みを行う

- ・嚥下機能検査の定着と認知度向上に向けて、STから積極的に主治医に打診を行い、定期的を実施するように心掛けた。VE実施総件数9件中、STから依頼し実施した件数は8件であった。
- ・定期的実施していく中で、他部署からマニュアルの内容についてSTに問い合わせが多かったり、時間調整の困難さがみられたりと、当初作成していたマニュアルの問題点などが浮き彫りになってきた。今後はわかりやすく見やすいマニュアル作りを他部署と協力して行っていく予定である。

②ST 3名体制での業務の効率化

- ・平成28年度前半は2名体制での業務であったため、セラピスト1名当たりの患者数が多く、実施回数の調整などが必要であった。そのため、患者さまに対し十分な訓練の提供が困難な状況であった。他部署との情報の共有を密にすることで、機能維持に努めた。
- ・平成28年11月からは1名育休より復帰し、3名体制での業務が再開した。そのため、より訓練スペースの不足が深刻化する状況となった。空いている

時にはOT室を借りたり、ベッドサイドや病棟のホールで実施したりするなどの工夫をしたが、訓練に最適な環境を確保することは難しかった。

③今後の課題

- ①嚥下機能評価と件数増加に向けて、STから各部署へ積極的にアピールしていく。それに向けた一つの方法として、既存のマニュアルの修正や内容の拡充を図る。
- ②平成29年度はST 4名体制での業務となる予定であり、訓練室の確保がさらに困難になると予測される。根本的な解決に向けてのアピールを継続するとともに、ST内での連携をさらに強化していきたい。
- ③セラピストの数が充足するため、今後はさらにST室全体の質的向上に向けた取り組みを行う。また、他部署に向けた業務内容のアピールを行う。
- ④ST訪問リハビリ開設に向けた準備を行う。
- ⑤あうん高知への嚥下機能評価での介入を日常業務として行い、入所者のQOLの向上につなげていく。

（文責：言語聴覚室主任 谷口 桃子）

医療相談室

①概要

所属長名：澤田 恵里
構成職員：社会福祉士 4名

病棟担当2名、あうん高知担当2名の計4名で対応している。

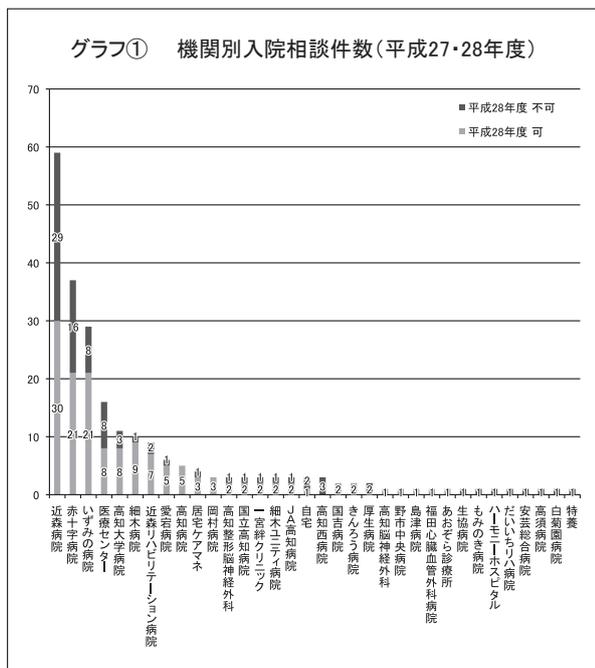
②活動内容・目標に対する達成状況

1. 平成28年度の入院相談件数は229件。うち、受け入れ可は140件で受け入れ率は61%であった。機



関別入院相談件数は、近森病院59件、高知赤十字病院37件、いずみの病院29件である。以下はグラフ参照（グラフ①）。障害病棟対象の紹介も多く、年度末頃はベッドコントロールがつかずにお断りしたケースも多く見受けられた。

平成28年度の退院件数は150件で、自宅への退院が61件、施設入所が19件、転院が27件、死亡が43件だった。退院先は前年度と比べても差はほとんどなかった。



- 平成28年度のあうん高知入所相談件数は164件だった。前年度より52件相談件数が上昇している。退所先も在宅復帰率を考慮した退所調整を行っている。また、入所相談の内容によっては、入院相談へも反映できており、法人全体を考慮した調整ができた。

③今後の課題

- 入院調整や、患者数の維持に関しては、障害病棟の対象かどうかの聞き合わせを関係機関からいただくようになり、対象患者の獲得が以前よりは苦勞なく調整できるようになった。今後も引き続き入院患者の大幅な増減のないような調整を心掛けたい。
- 地域連携機能や、退院調整に特化した調整を考えると、現状の人数では対応が困難な状況が今後は考えられる。タイムリーな調整に即座に対応できるよう、スタッフの増員を検討し、柔軟な対応ができるように体制を整えていきたい。
また、仁生会のソーシャルワーカーでの連絡協議会を再開し、横のつながりを強化していき、法人内での連携強化を図っていきたい。

(文責：医療相談室主任 澤田 恵里)

事務部

①概要

所属長名：部長 桐生 剛
構成職員：副部長 1名
合計人数 2名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 事務部門組織の体制作り
担当役割・命令指示を明確にして権限の委譲を行う
2. 業務の検証を行い成果につなげる
効果の可視化により状況を把握し業務の効率化・コスト削減を行う

を行うこと。

2. 部門間のコミュニケーション
病棟再編・病院経営向上には業務連携と情報収集に分析した情報共有を現在以上に行うこと。

③今後の課題

1. 人材育成
次世代を担う人づくり・環境づくり・体制づくり

(文責：事務部長 桐生 剛)

総務課

①概要

主任：大山 裕
鳴瀧 有人
小松 美紀
構成職員：総務 5名
施設 5名
運転 1名
合計人数 11名



②活動内容・目標に対する達成状況

平成28年度 就職者 60名 退職者 53名
人事・労務管理・給与・会計・PCおよびITシステム管理・用度・社内規定・福利厚生・各種申請・書類作成・院内外行事・環境管理・冠婚葬祭・施設管理・運転業務など幅広く行っている。

東館エレベーターのリニューアルを行い、また修繕の課題となっていた本館空調全面改修工事を来年度4月から開始するといった大きな業務を行った。

総務課内での勉強会も他部署を交えて行った。

手順見直しや効率化などに力を入れ、勉強会を開催して知識の共有を図り、また他の勉強会を積極的にできる環境を整えたい。

まとめ

異動や新人職員で2名採用されたので課内のコミュニケーションを密にする必要がある。総務課は一人ひとりが多種多様な業務を行っており、煩雑になってきているため一つひとつを精査し、業務の効率化とチームワークの強化に努めたい。

③今後の課題

厚生支局、保健所、介護保険課などの届け出関係の

(文責：総務課主任 鳴瀧 有人)



医事課

1 概要

主 任：百田 知佐子
葛目 里香

構成職員：事務員 合計人数 14名
(うち1名は平成28年8月2日より産休
入り、1名は平成29年1月16日より育休
明け)

2 活動内容・目標に対する達成状況

医療入院・外来業務、介護入院業務、あうん高知入
所・通所、GHいろは丸・DSいろは・ヘルパーステー
ション高知・居宅一宮・訪問リハ(介護)請求業務、
一部診療情報管理室業務(カルテ管理)・医師の書類作
成補助を行っている。

平成28年度の目標としていた業務の効率化につい
ては、在宅部事務担当者2名を専任とし、個人で多数兼
務していた担当業務をより専門的に行えるよう整理し
た。

3 今後の課題

平成28年度も昨年度に引き続き、人員の増減、産休



育休により業務が安定せず、残業時間の削減には至ら
なかった。そこへ外来入院ともに患者数が増加したた
め、新人教育・個人のスキルアップに十分な体制を整
えることができなかった。

今後は仁生会グループ内医事課同士で交流を持ち情
報の共有や共同の勉強会の可能性を探っていき、医事
課職員のレベル底上げを図っていく。

(文責：主任 百田 知佐子)

居宅介護支援事業所「一宮」

1 概要

管理者：和田 真樹

構成職員：介護支援専門員 4名

2 活動内容・目標に対する達成状況

要介護認定を受けた在宅で生活されるご利用者、ご家族からの相談に応じて、アセスメントに基づいた居宅サービス計画を作成する。また利用状況の確認や、関係機関との連絡調整、必要な手続きを行い、可能な限り自宅での生活が続けられるよう支援している。

1. 総合事業に対応し、特色ある事業展開を図る
新規相談は積極的に受け付け、利用実績アップにつながることができた。介護支援専門員の実績件数は3名体制の上期平均が介護92件、予防18件。4名体制となった下期が介護108件、予防（総合事業含む）14件と、一人当たりの平均担当者数は下がっている。これは新人ケアマネジャーの育成計画のもと、担当数を8名からスタートしたためであり、それを除く一人当たりの担当数は逆にアップしている。
また、事業所全体のケアマネジメントの質の向上を目的とし、1名が主任介護支援専門員資格を取得できた。
2. 地域とのつながりを大切にし、施設開放やコミュニティに根ざした活動を行う
総合事業を視野に入れた活動を行うため、認知症カフェや研修などに参加し地域の方と交流を図れた。
3. 利用者と目線を合わせ、ニーズに合った必要と



されるサービス提供ができる人材育成、相互共有を図る

良質なケア提供のために研修会へ積極参加、業務改善会議内での伝達研修実施などを定期的に行った。

3 今後の課題

1. 平成28年10月の高知市総合事業開始を前に、ケアサポートセンター介良の閉鎖が決まり、9月より引き継ぎが始まった。制度移行と時期が重なったため、やむを得ず要介護利用者の対応を重点的にを行い、要支援者の受け入れをセーブして対応した。
2. 地域に根差した三愛病院・あうん高知の中にある居宅介護支援事業所として住み慣れた自宅での生活を支えていくことができる質の高いケアマネジメントを目指す。そのためには新人ケアマネジャーの育成、ケアマネジメントの質の確保、ニーズの高い総合事業への対応など、取り組むべき課題の一つひとつ丁寧にに対応していきたい。

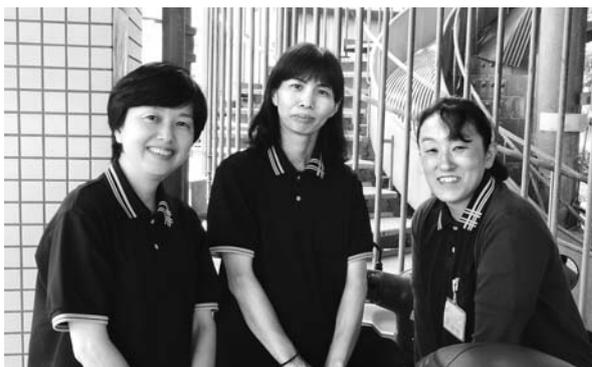
（文責：管理者 和田 真樹）

ホームヘルプステーション高知

1 概要

所属長名：管理者・サービス提供責任者
野町 喜代

構成職員：主任・介護福祉士
（管理者・サービス提供責任者） 1名
介護福祉士（他部署兼務） 1名
介護基礎研修1級修了 1名
2級ヘルパー 1名
合計人数 4名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 今後の事業展開について具体的な検討を行い、生き残り策を提案する。

昨年に引き続き人件費を見直し、平成28年5月には常勤職員（介護福祉士）1名が他部署に配置換えとなり、平成28年夏以降はパート職員2名が主体となりサービス提供を行った。職員一人当たり月延べ訪問件数は伸びた。平成28年12月前後に介護予防の契約利用者枠を縮小し、要介護者の契約に重点を置いた。また、実施地域に関しては移動時間を考慮し東部地区周辺に重きを置く体制とした。

2. ケア提供の質確保のため、病棟などでの技術研修

を計画的に実施する。

パート職員の技術研修や対応方法を含めた研修を月単位で計画し、施設や病棟などで実施した。排泄や入浴の声の掛け方、入浴時の注意点、言葉よりも視覚で学ぶ機会が増えた。また週2回事業所で全員が揃う時間帯に口頭での申し送りやケア内容の検討を行った。

③今後の課題

1. 東部エリアの契約利用者を獲得する。
2. 保険外サービスの内容を検討する。

（文責：管理者 野町 喜代）

**デイサービスいろは****①概要**

所属長名：竹口 伸也

構成職員：看護師・機能訓練指導員兼務	2名
准看護師・機能訓練指導員兼務	1名
介護福祉士・生活相談員兼務	3名
介護福祉士	4名
看護助手	2名
合計人数	12名

**②活動内容・目標に対する達成状況**

1. 総合事業に対応し、特色ある事業所展開を図る。

デイサービスいろはの特色である作業・創作活動の充足を中心に活動を行い、利用者が楽しんで利用を続けられるようケアの工夫に取り組んだ。

個別ケアを意識し、個々の在宅生活に合わせ、利用時間の調整や在宅生活を少しでも長く継続できるように、デイサービスを利用しやすい環境の調整を行った。

臨床美術に関しては、サロンを中心に実施したが、いろはの特色までには至っていない。年間の利用率は約82%と目標を若干下回っている。

平成28年10月からの予防通所介護から総合事業への移行に関しては順次行っている。

2. 地域とのつながりを大切にし、施設開放やコミュニティに根差した活動を行う。

定期的に行われている、ボランティアのコンサートなど、ご家族にお知らせし、参加してもらうこともできた。サロンは継続しており、地域のボランティアによる講師や、よどや薬局一宮店にご協力をいただくなど、外部の力を活用した運営を行うことができた。地域への開放は徐々に進んでいる。

一宮ふれあいまつりへの作品の出品や、一宮ふれあいカフェ・一宮老人クラブのミニデイの講師など、地域への関わりも継続している。

3. 利用者と目線を合わせ、ニーズに合った必要とされるサービス提供ができる人材育成、相互共育を図る。

今後の認知症加算の算定も視野に入れ、認知症介護実践者研修の受講など、通所介護事業の拡大を見据えた取り組みを行っている。

③今後の課題

年間の平均利用率は82%と目標を少し下回っている。冬場の利用数の減少が大きく、休止中の利用者が増えたこと、振り替え利用などの工夫が十分でなかった。男性利用者の定着のための活動の援助も課題となっており、今後も工夫が必要である。

事業拡大のために、認知症加算の算定できる体制を整える必要がある。

平成29年度 部署目標

1. 細やかな個別ケアの工夫と特色のある事業所展開を行い、平成30年度の介護報酬改定に備える。
2. 地域とのつながりを大切にし、施設開放やコミュニティに根差した活動を行う。
3. 利用者とも目線を合わせ、ニーズに合った必要とされるサービス提供ができる人材育成、相互共育を図る。

（文責：管理者 竹口 伸也）



グループホームいろは丸

1 概要

所属長名：森岡 明美

構成職員：管理者	1名
介護支援専門員／介護福祉士	1名
計画作成者／介護福祉士	1名
看護師	1名
介護福祉士	11名
看護助手	3名
介護職員	1名
合計人数	19名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- グループホームの特性を生かした、生活環境を提供する
個別ケアを重視し、自立支援をアプローチしていくため、必要に応じたカンファレンス・ミニカンファレンスを行い、職員全体で意見を出し合いプランへつなぐことができた。
- コミュニティの一員として、地域とのつながりを大切にする
毎日の散歩の時、出会った方にあいさつを続けてきた。最近では「今日は良い天気やねえ」「今日も元気に歩きよるかよ」と声を掛けていただくこともあり、地域の方との大切なコミュニケーションの時間となっている。
今年度は初めて一宮ふれあい祭りへ、利用者の皆さんが作った作品を出品して参加を行った。

- 良質のケアが提供できるよう、自己研鑽に励む
今年度は、院内研修・在宅研修など参加できなかった職員のために、毎月行う部署会で伝達講習を行い、部署全体に学びを深めるよう努めてきた。

3 今後の課題

- 運営推進会議の内容を見直し、地域住民の方の参加を充実させる。
- 防災訓練を計画し、近隣住民の方への参加を呼び掛け、協力体制を築く。
地域の中で、閉ざされた空間とならないよう、利用者の方が地域の方との馴染みの関係を広げていくために施設での行事の計画や会への参加など、積極的に住民の方へ呼び掛けをして、交流の場をつくっていきたい。

(文責：管理者 森岡 明美)



高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所

1 概要

いっく出張所は、高知市より委託を受け、一宮・薊野地区のおおむね65歳以上の方およびそのご家族を対象に、総合相談・介護予防・地域のネットワークづくりに関する業務を行っている。

【担当地区】平成29年4月1日現在

	65歳以上世帯数	独居高齢者	65歳以上人口	高齢化率
一宮・薊野(重倉・久礼野を含む)	4,812世帯	2,199人	6,489人	25.37%

構成職員：看護師／介護支援専門員	1名
社会福祉士	1名
合計人数	2名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- 地域の相談窓口としての機能の充実を図る
関係機関との連携や積極的に研修へ参加し、相談

- 窓口としての機能強化に努めた。
- 地域活動・社会活動の促進
平成29年3月に開催された、一宮地区の支え合いマップづくりに参加。今後、住民同士の支え合いネットワークづくりへ市社協とともに働き掛けていく。
- 介護予防に関する知識の普及啓発や地域の活動へ

のつなぎ支援

ミニデイやいきいき百歳体操会場などで、介護予防に関する講話を今年度は5回開催。

4. 地域住民の認知症に対する理解促進や認知症を支えるネットワークの構築

地域ケア会議にて、認知症の独居高齢者を地域でどう支えていくか検討し、住民を巻き込んだ支援が検討、展開された。

【相談支援業務実績】

相談支援(延べ)回数	訪問	来所	架電	受電	会議
1,507	666	110	251	433	※3

※地域ケア会議参加回数

【地域住民のネットワークづくりの実績】

介護予防啓発回数	老人クラブ・ミニデイ	コミュニティ会議	認知症カフェ	地域の防災会議	介護施設の運営推進会議	その他
149	6	32	11	6	29	147

③今後の課題

・地域力の向上

28年度は、地域住民が主体で活動している組織に関わる機会が多くあった。今後は支援を必要としている人と地域をつなぐこと、支援する側の役割・生きがいくりのために積極的に地域の社会資源の活用を検討し、つながりと助け合いの強化を支援していく。

(文責：中司 梓)

老人保健施設あうん高知

概要

施設長 細木 秀美



①概要

施設長：細木 秀美
副施設長：小松 雅理

②活動内容

在宅復帰率は年度を通して30%以上、ベッド利用率も94%前後を維持できた。通所利用者数も前年比2割増で推移しており、多くの出会いがあることでやりがいを感じる反面、入退所や新規利用者対応で煩雑な一年となった。看取りについては、件数は多くはなかったが、施設の良さを最大限に活かしたケア提供を心掛けている。また、それぞれに必ず振り返りを行い、よりよくなる努力を続けている。

地域活動については、昨年にも増して力を入れ、ミニデイの講師派遣、災害対策に関する講師、認知症カフェ活動をはじめとする地域の行事などに参画できた。5月に開催した家族会総会と「和っしょい 皆来

い交流会2016」では前年度を上回る皆さんにおいでいただき、交流の輪を広げることができた。また、9月には、県下一斉避難訓練に合わせ、地域の皆さんに福祉避難所に関する説明と、備品などを見学してもらう機会をつくり、その後の地域研修開催につなぐことができた。

施設実習やナツボラなど、できるだけ広く受け入れを行い、第三者の目を入れることで透明性を高める努力をしている。実習や行事だけのつながりではなく、長く関わってもらえる関係性づくりに今後も努力していく。

(文責：施設長 細木 秀美/副施設長 小松 雅理)

▶年次報告

入所

①概要

フロアマネージャー	： 嶋崎 由季
構成職員	： 看護師 2名
	准看護師 5名
	介護福祉士 18名
	ヘルパー 5名
	介護支援専門員 2名
	支援相談員 2名
	理学療法士 2名
	合計人数 36名



②平成28年度 目的・目標

1. ベッド稼働率97%以上、在宅復帰率30%以上、ベッド回転率5%以上維持
2. 看護・介護サービスの質向上

③目標に対する取り組み

1. 年間の平均ベッド稼働率は94.6%となり、平成27年度より0.6%アップしたが目標の97%以上は達

成できなかった。

空床日数を短縮させるために、入所相談から受け入れまでの迅速な対応、自宅に退所するケースを計画的に調整するなどの取り組みを行った。

しかし、下期に病状悪化による医療機関への入院に加え特養入所が相次ぎ、ベッド稼働率に影響をおよぼした。

また、在宅復帰・在宅療養支援機能加算の要件で

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

ある在宅復帰率も上期は47.5～62.5%で推移したが、下期は50%を下回るようになり、3月末の実績は33.3%となった。ベッド回転率は7.4～13.3%と年間を通じて目標達成できた。

2. 看護・介護サービスの質向上

サービスの質向上のために、昨年度に引き続いて受け持ち職員や部署内委員の役割強化に取り組んだ。受け持ち職員と介護支援専門員を含む多職種が協働してケアカンファレンスを行い、個別ケア内容の検討・介助方法の統一に努めた。

また、部署内委員による各種マニュアル遵守のための指導や業務改善のための取り組みも継続した。感染予防対策などについては、委員による手

技確認や聞き取り調査など他者評価の機会を設けた。

地域交流活動として、和っしょい皆来い交流会の開催や地域の認知症カフェや老人クラブの会合に参加し、認知症対応に関する講習などを行うことができた。

4. 次年度の課題

1. ベッド稼働率97%以上、在宅復帰率30%以上、ベッド回転率5%以上維持
2. 看護・介護サービスの良質なケア提供

(文責：フロアマネージャー 嶋崎 由季)



通所リハビリテーション デイケア・ファイト

1. 概要

病棟形態：通所リハビリテーション

主 任：竹中 誠

構成職員：看護師	2名
介護福祉士	6名(生活相談員含む)
ヘルパー	2名
理学療法士	2名
合計人数	12名



2. 平成28年度 目的・目標

1. 多職種連携を強化しそれぞれの専門性を活かし、個々の利用者の生活・ニーズに沿ったサービスの提供を行う。
2. 自立支援を目的とし、個別性・選択に着眼をおいた質の高いケアを提供し、新規居宅の紹介ケースを獲得する。
3. 地域の他のサービス事業所との連携を強化し地域活動への参加をしていく。

3. 目標に対する取り組み

1. 介護・看護・理学療法士が専門分野以外のケアに積極的に参加し連携の強化を図り、また、ケアマネや他事業所の各専門職との情報共有を密に行った結果、連携の強化が図れ、ケアの質の向上ができた。他にも、個々の利用者さんの生活のニーズに沿ったサービスを提供できたことで年間の稼働率平均が67.3%となり、昨年と比較し約10%向上することができた。1日の平均利用人数としても昨年対比で3.3人の増加となった。
2. スタッフの得意分野を生かしたケアプログラムを提供して、利用者の目標達成に合った活動を選択

していただいている。

3. 地域とのつながりを大切に、一宮の地域活動として認知症カフェへ参加し、認知症に関する寸劇を行い、良い対応と悪い対応を紹介した。一宮地区の通所サービスが集まり、意見交換会への参加も行き事業所間での課題などの共有を図った。また、例年通り地域で行われているふれあい祭などに、作品を出展し参加した。地域交流の施設行事の一環として、「和っしょい皆来い交流会」を今年も開催し、多くの地域の方にご来場いただいた。

4. 次年度の課題

1. 介護報酬改定に対応したケアの展開を行うことで、稼働率を平均75%にする。
2. 多職種連携を強化しそれぞれの専門性を生かし、個々の利用者・家族のニーズに沿ったサービスの提供を行う。
3. 地域の他のサービス事業所との連携を強化し地域活動への参加をしていく。

(文責：介護主任 竹中 誠)

委員会

定例会	経営会議
	運営会議
	医局会
全 体	医療安全管理委員会
	安全衛生委員会
	リスクマネージャー委員会
	院内感染防止対策委員会
	医療ガス安全管理委員会
	防災委員会
	倫理と権利の検討委員会
	薬事委員会

全 体	褥瘡対策委員会
	栄養委員会
	診療録管理委員会
	広報委員会
	サービス向上委員会
	未収金管理委員会
	臨床検査適正化検討委員会
	輸血療法委員会
	入院相談・ベッド調整会
	院内教育委員会

看護部内	看護師長会
	看護主任会
	介護主任会
	看護部業務報告会
	看護部教育委員会
	看護部感染防止対策委員会
	看護部接遇委員会
	看護部褥瘡対策委員会
	看護部リスクマネージャー委員会

医療安全管理委員会

1 平成28年度 目的・目標

- ・定期的な院内巡回により現場のリスク状況を把握し、改善することで安全かつ質の高い医療サービスを提供する。
- ・研修会の開催により、安全管理に関する基本的考えや医療事故予防および再発防止方を職員に周知徹底する。また基礎知識の向上を図ることで、事故を未然に防ぐ組織的な基盤をつくる。
- ・医療事故発生時には、適切かつ迅速な対応を行い被害を最小限にするとともに、再発防止に向けた取り組みをする。

4. 研修会の開催

「医療安全文化の醸成を目指して」オンデマンド配信

平成28年 7月4日・7月12日
参加者207名（参加率76.07%）

「三愛病院安全管理指針説明会」
平成28年 9月20日
参加者208名（参加率77.9%）

「医薬品手順書に関する事項」「副作用等が発生した場合の対応に関する事項」
平成29年 1月5日・1月10日
参加者215名（参加率77.6%）

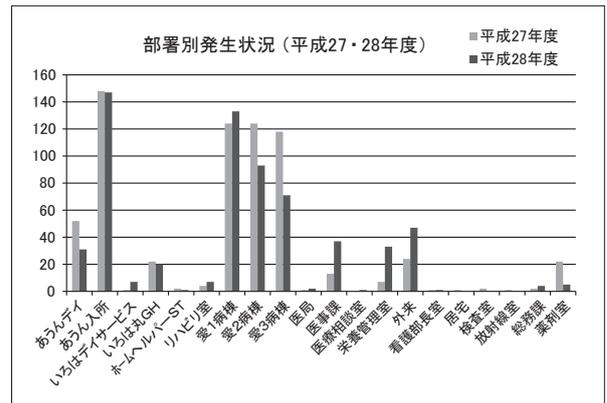
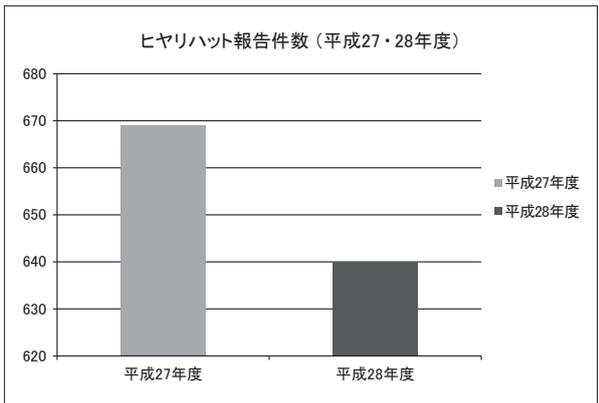
2 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

1. 委員会開催：毎月 第1水曜日
2. 院内巡回：毎週月曜日（フロアごとに実施し現場へフィードバックを行う）
3. 医療安全管理マニュアルの見直し

目標に対する達成状況

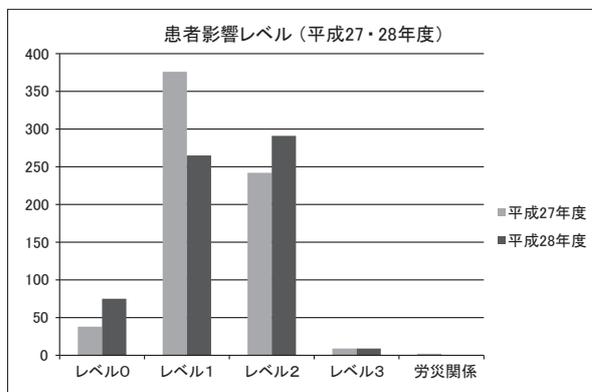
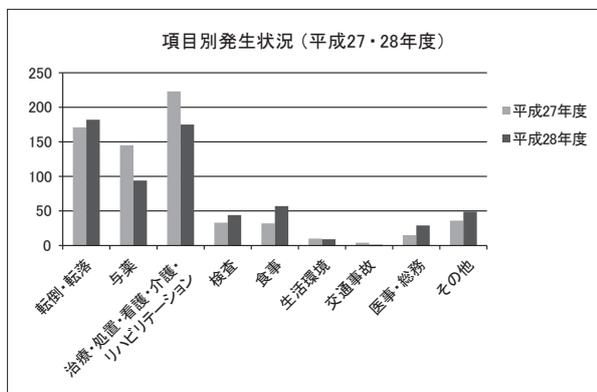
定期的に巡回を行うことで、各部署のリスク状況も以前に比べ少なくなっている。中には、ハード面的に改善が困難な場所もあるが、工夫をすることでリスクを軽減させている。研修開催においては、研



修開催日を複数にすること、また各部署で伝達講習を行うことで、昨年度よりも5%参加率が上がり75%以上となった。

ヒヤリハット事案では、与薬に関して重点的に分析と対策を行い、昨年度より36%減少させることができた。対策として、手順書の未整備が原因であった事案については手順書の作成を行い、手順逸脱に

よる事案については、さらに遵守されやすいよう手順書の見直し修正を行った。その結果、ヒヤリハット報告件数が5%減少した。事案の中には業務中断による発生があり、対策として「業務中断中マーク」の活用を1病棟で試験的に運用した。評価の結果、継続をしていくこととなり、今後は各部署での活用に向け取り組んでいく。



（文責：管理者 戸田 里子）

院内感染防止対策委員会

①平成28年度 目的・目標

1. 院内感染の発生予防と感染症の拡大防止を図る。
2. ICT活動を通して、感染防止対策を全職員で取り組む体制をつくる。

②活動内容・目標に対する達成状況

- 1) 研修会の開催（4月、7月、10月）参加率：各研修80%以上
テーマ「スタンダードプリコーション」「感染対策の基礎知識」「インフルエンザ」
- 2) 手指衛生の遵守率向上のための取り組み（1患者当たり約9回）
- 3) 感染報告（毎月）指定抗菌剤使用届け報告（毎月）週間細菌検査検出状況（週報）
- 4) ICT活動（感染管理ベストプラクティスへの参加、手順書作成）
- 5) 職業感染予防対策（B型肝炎ワクチン接種）

今年度の取り組みの一つとして、職員へのB型肝炎

ワクチン接種を行った。対象を血液暴露のリスクの高い看護師および検査技師として希望者を募り、希望者16名中抗体のなかった14名に接種を行った。また入社時の感染症の聞き取りから、希望者には随時予防接種を行っている。

感染管理ベストプラクティスでは、リハビリテーション課が「リハビリ室の環境整備」について手順書の作成を行った。さまざまな職種が感染対策について考える機会となり、誰もが統一した方法で実践できるため、手順書を効果的に活用できている。

1月にはインフルエンザ罹患者が数名出たが、昨年作成したインフルエンザ対応マニュアルに沿って早期に対応を行うことで、アウトブレイクは防ぐことができた。発症の原因として家族や見舞いの方からの感染が疑わしい事例が多く、予防策として面会制限の規定を作成した。これにより次年度からの流行性(季節性)感染症の発生が予防されることが期待できる。

（文責：幹事 濱名 郁里）



褥瘡対策委員会

①平成28年度 目的・目標

1. 褥瘡回診・定例会で、DESIGN-Rを用いた評価および検討を行う
2. 褥瘡発生率1%以内・治癒率30%以上にする
3. 予防活動

②活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

- ・褥瘡回診 1回/月(第4火)
- ・委員会開催 褥瘡回診翌日
- ・研修会 「褥瘡予防と発生時の対応」
平成28年7月27日(水)
「褥瘡の予防と改善」
平成29年2月13日(月)

目標に対する達成度

褥瘡発生者は14名で発生率0.6%(昨年度13名、0.6%)であり、昨年とほぼ同じ推移で経過している。治癒率は今年度から計算方法を変更し、毎月と年間2種類での値を算出するようにした。平成28年度としての治癒率は84.6%となっている。持ち込み褥瘡が13件(昨年3件)と多かったが、ほとんどが早期に治癒している。同一患者が同一部位に発生と治癒を繰り返すケースが数例あり、リハビリとの連

携を強化した。

皮膚科外来で処置を行っていたが、難治のため入院になったケースが1件あった。入院2週目にデブリを行い、その後、簡易陰圧閉鎖療法を開始した。治癒までに127日を要したが、退院後も再発の兆候なく経過している。このケース以降、外来患者の情報も委員会で報告するようにした。

MDRPU発生者は2名で、原因としては酸素マスク1、ポジショニングクッション1となっている。酸素マスクは10日で治癒しているが、クッションが原因での発生は膝窩部Ⅳ度で発見されており3カ月が経過するが治癒に至っていない。点滴器具による持ち込みも1件あった。

12月にクッション管理台帳と使用クッションの確認を行った。台帳と違う患者の使用や同室者間での入れ替わりなどがあり、各病棟で使用クッションの確認と原因の検討を行い、管理方法の再周知を行った。また、管理台帳をパソコンで閲覧できるようにシステムを変更した。

ハーティグロープに変更し2年が経過した。ベッドサイドへ置くことは定着してきているが、業務優先になってしまい十分な活用には至っていない。職員の意識にも差があるため、申し送り時やラウンド時に注意喚起し、使用頻度の向上を目指していく。

■平成28年度 実績

	平成28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	総計	
リスク患者数(名)	162	164	163	164	174	173	173	172	174	175	176	181	2,051	
褥瘡保有者数(名)	8	5	5	3	5	2	3	1	5	2	3	4	46	
発生者数	総数	2	2	1	1	2	1	1	1	1	0	1	0	13
	率	1.2%	1.2%	0.6%	0.6%	1.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.6%
	持ち込み	5	1	0	0	2	0	0	0	3	0	0	2	13
治癒者	総数	5	1	2	1	4	0	3	0	3	0	1	2	22
	率(月)	62.5%	20.0%	0.0%	33.3%	80.0%	0.0%	100%	0.0%	60.0%	0.0%	33.3%	50.0%	
	率(年)													84.6%
MDRPU	発生数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	持ち込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	治癒数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

・治癒者：月率=その月の保有者数に対する治癒率 年率=その年度の発生者・持ち込み者数に対する治癒率

(文責：副委員長 谷山 智砂)



栄養委員会

①平成28年度 目的・目標

1. 入院患者さまの栄養改善
2. 嚥下障害食について検討
3. 濃厚流動食について

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

- ・行事食の検討と計画
- ・発酵乳のむヨーグルトの検討

- ・濃厚流動食の見直し検討
- ・濃厚流動食の勉強会の開催
- ・衛生管理について

2. 目標に対する達成状況

1. 入院患者さまの多くが高齢者であり、各種の生理機能の低下によって便秘になりやすく、緩下剤を服用している患者さまも少なくない。そこで、腸内環境改善目的のため、平成28年9月からL・カゼイン・シロタ株を多く含んだ発酵乳のむヨーグルトを毎日提供することとした。
2. 摂食、嚥下障害のある患者さまに対して用いる「とろみ付味噌汁」について検討した。試作お

よび試飲を行い「味」「喉ごし」「見た目」「安定性」などの項目について検討を行った。結果として、味、喉ごしなどに問題はないが高価な食品であるため、食事での提供は難しいと判断し言語聴覚士の訓練時に訓練食として提供することとした。

3. 経口から食事摂取ができない長期寝たきりの糖尿病患者さまに提供する糖質調整流動食について検討した。今後も濃厚流動食を摂取されている患者さま一人ひとりの病状に応じた食事内容を提供できるように努めていく。

(文責：委員長 石山 由香)



薬事委員会

1 平成28年度 目的・目標

医薬品の適正化並びに円滑化を図る。

2 活動内容・目標に対する達成状況

平成27年度の採用数は825剤であり、平成28年度は805剤となった。後発医薬品の採用数は168剤であり、後発医薬品の採用率は20.8%であった。また使用率は年度末で56.1%となった。今年度の新規採用剤数は16剤、限定採用剤数は47剤、中止薬剤数は47剤であり、

そのうち、後発医薬品への変更数は32剤であった。現在は患者さまの服用しやすさや収益面も考慮し、同一組成・含量であっても複数の採用となっているが、今後、医薬品採用申請書が提出された場合、同効薬への変更および後発医薬品への変更を、お願いしたいと考える。

(文責：委員長 小野 正英)



安全衛生委員会

1 平成28年度 目的・目標

1. 労働者健康の保持増進
2. 職場環境の改善
3. 労災事故の防止
4. ストレスチェックの実施

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 毎月1回の委員会の開催と、毎週1回の院内巡視
 2. 各部署の職場環境の改善
 - ・労災事故
 - 平成27年度 8件
業務災害：6件、通勤災害：2件
 - 平成28年度 10件
業務災害：8件 通勤災害：2件
- 労災事故発生件数は、業務中の災害が2件増加したが、前年並みであった。

3. ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により、労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を目的とし、本年度より実施。

部門ごとの分析結果報告書を、委託先の細木ユニティ病院より送付の組織診断報告書を基に委員会で作成し、各部署長に配布。

・調査対象者 240名

●受検者数：132名（受検率：96.7%）

4. 禁煙対策について

禁煙ポスターを掲示。

喫煙（禁煙）アンケートを実施。

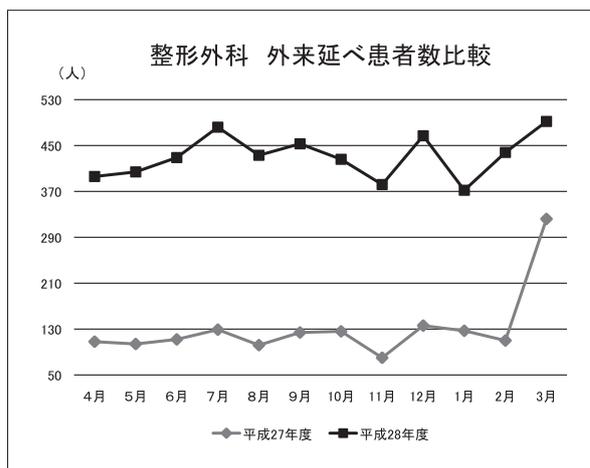
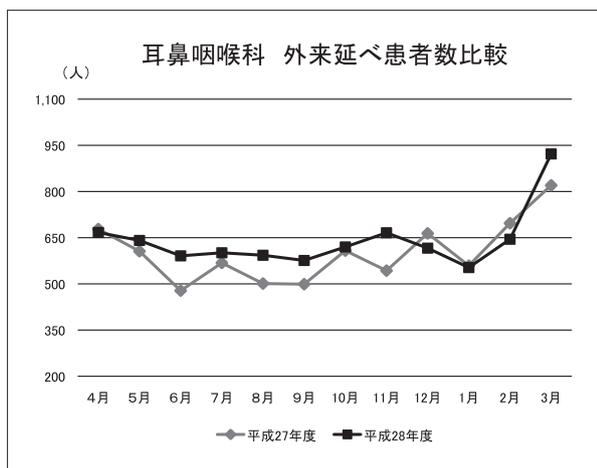
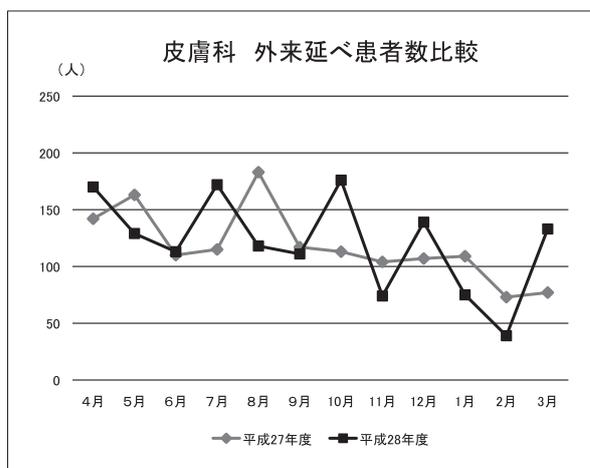
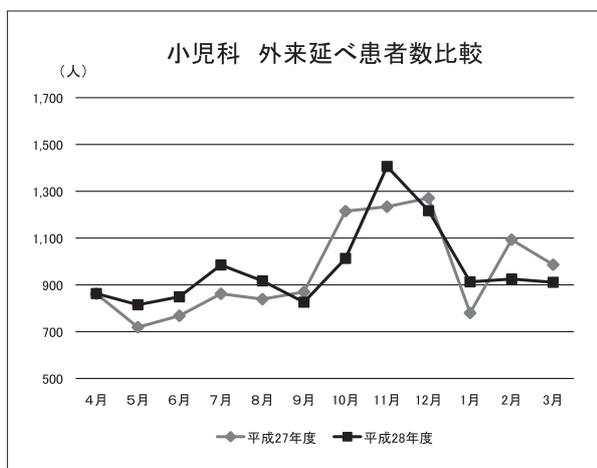
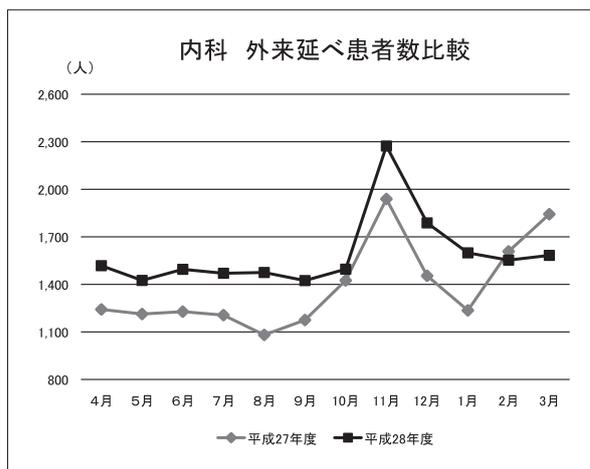
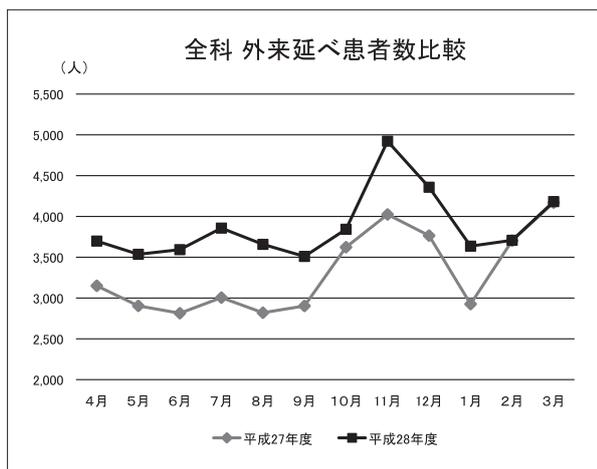
来年度は、禁煙治療希望対象者に治療を実施予定。

(文責：委員長 桐生 剛)

診療部

■ 平成28年度 外来患者数統計

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数(人)	2,093	2,026	2,074	2,210	2,124	2,001	2,174	2,192	2,202	2,254	2,309	2,407	26,066
延べ患者数(人)	3,698	3,536	3,593	3,857	3,658	3,510	3,843	4,922	4,358	3,636	3,708	4,182	46,501
平均患者数(人)	147.9	153.7	138.2	154.3	140.7	146.3	153.7	205.1	174.3	158.1	161.2	160.8	157.9
新患者数(人)	173	141	173	148	165	104	157	198	179	148	162	120	1,868



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あうん高知

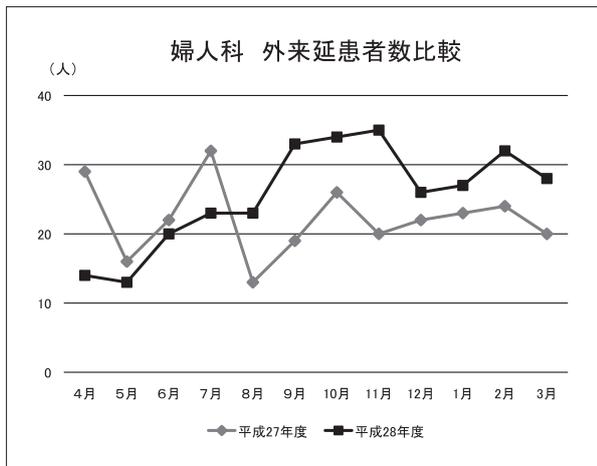
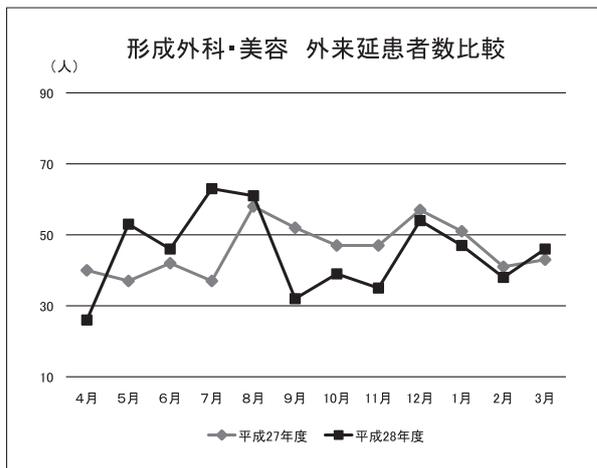
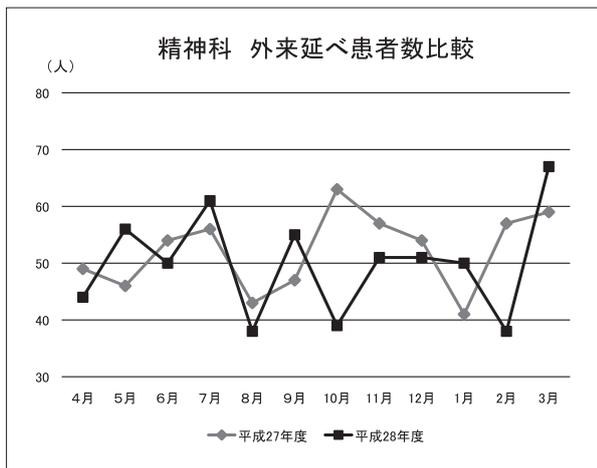
日高クリニック

本部

アドレス・高知

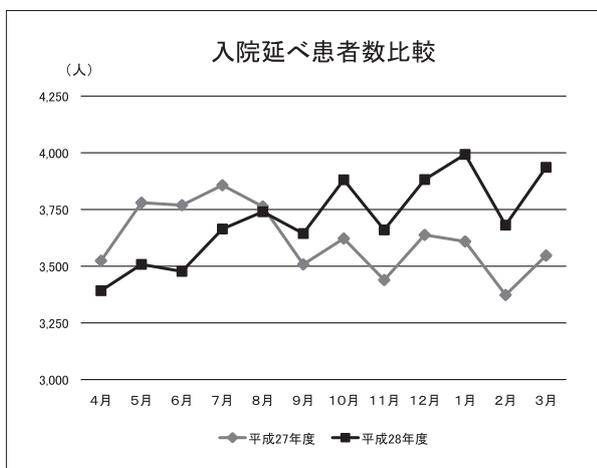
福寿園

積善会



■ 平成28年度 入院患者数統計

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率 (%)	77.4	77.5	79.4	81.0	82.6	83.2	85.7	83.6	85.8	88.2	90.0	87.0	83.5
延べ患者数(人)	3,392	3,508	3,477	3,664	3,740	3,644	3,881	3,660	3,882	3,993	3,681	3,936	3,705
平均患者数(人)	113.1	113.2	115.9	118.2	120.6	121.5	125.2	122.0	125.2	128.8	131.5	127.0	121.9



看護部

■ 平成28年度 病棟別業務実績

愛1病棟（障害者施設等）業務実績 平成28年3月より38床から53床へ変更

病棟形態	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (53床)	稼働率(%)	61.9	63.1	64.0	70.7	70.9	73.3	74.1	71.7	75.2	77.9	81.5	76.1	71.7
	延べ患者数(人)	984	1,037	1,017	1,162	1,165	1,165	1,217	1,140	1,235	1,280	1,210	1,251	1,155
	平均患者数(人)	32.8	33.5	33.9	37.5	37.6	38.8	39.3	38.0	39.8	41.3	43.2	40.4	38.0

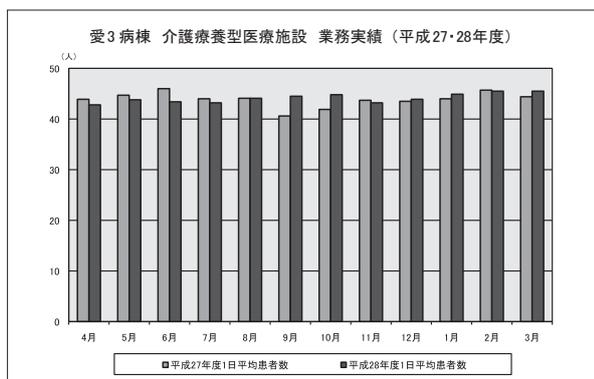
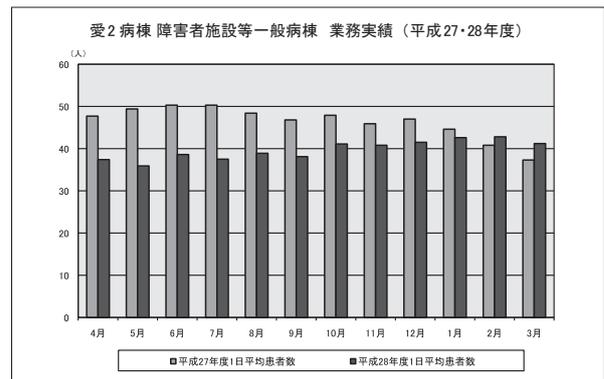
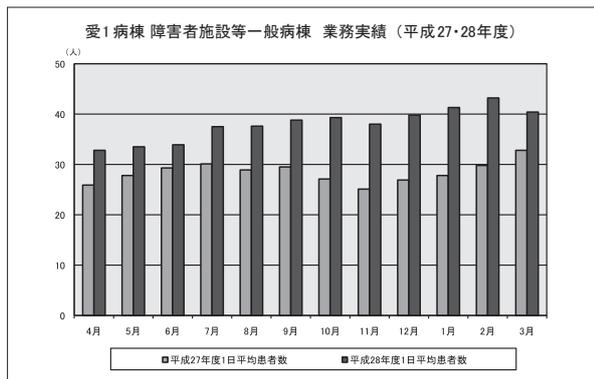
愛2病棟（障害者施設等）業務実績 平成28年3月より60床から45床へ変更

病棟形態	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (45床)	稼働率(%)	83.2	79.9	85.8	83.4	86.5	84.7	91.4	90.6	92.1	94.8	95.1	91.5	88.3
	延べ患者数(人)	1,123	1,114	1,158	1,164	1,207	1,144	1,275	1,223	1,285	1,322	1,198	1,276	1,207
	平均患者数(人)	37.4	35.9	38.6	37.5	38.9	38.1	41.1	40.8	41.5	42.6	42.8	41.2	39.7

愛3病棟（介護療養）業務実績

病棟形態	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護療養 (48床)	稼働率(%)	89.2	91.2	90.4	89.9	91.9	92.7	93.3	90.1	91.5	93.5	94.7	94.7	91.9
	延べ患者数(人)	1,285	1,357	1,302	1,338	1,368	1,335	1,389	1,297	1,362	1,391	1,273	1,409	1,342
	平均患者数(人)	42.8	43.8	43.4	43.2	44.1	44.5	44.8	43.2	43.9	44.9	45.5	45.5	44.1

■ 病棟別1日平均患者数（前年度比）



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

医療技術部

■ 薬剤室 処方箋・服薬指導・検薬件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来処方箋件数	15	14	22	37	18	21	39	10	40	54	32	23	325
外来処方箋件数(注射)	117	95	94	135	124	92	114	110	107	104	93	90	1,275
入院処方箋件数	1,660	1,302	1,552	1,456	1,667	1,711	1,473	1,586	1,852	1,347	1,522	1,782	18,910
入院処方箋件数(注射)	497	655	579	657	535	626	689	672	558	432	522	696	7,118
併設あうん高知 処方箋件数	331	392	329	315	399	374	403	335	404	353	371	377	4,383
併設あうん高知 処方箋件数(注射)	3	1	24	14	11	1	11	8	11	18	32	7	141
服薬指導件数	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4
検薬件数(持参薬)	12	11	14	16	17	12	11	13	17	17	11	11	162
併設あうん高知 検薬件数	21	22	22	17	18	19	11	14	17	11	8	10	190

■ 薬剤室 処方箋枚数

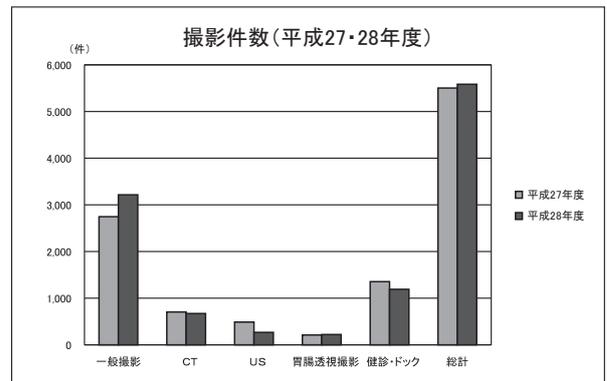
年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
平成27年度	184	879	7,084	8,628	1,903	141
平成28年度	249	1,213	7,181	5,362	2,158	114

■ 薬剤室 処方件数

年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
平成27年度	205	985	18,550	11,696	4,092	205
平成28年度	325	1,275	18,910	7,118	4,383	141

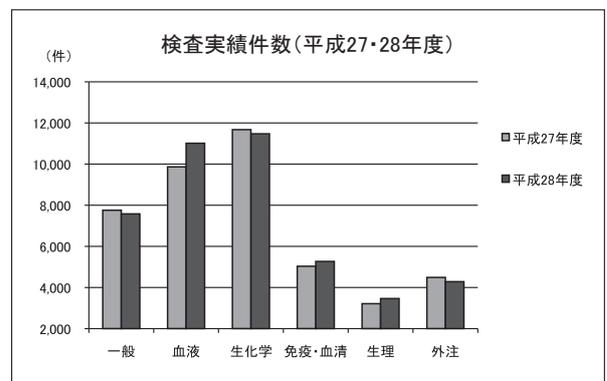
■ 放射線室 平成28年度 撮影件数

年月	平成27年	平成28年	件数比率
一般撮影	2,746	3,215	117%
CT	704	671	95%
US	488	267	55%
胃腸透視撮影	211	221	105%
健診・ドック	1,354	1,190	88%
総計	5,503	5,584	101%



■ 臨床検査室 検査業務実績件数

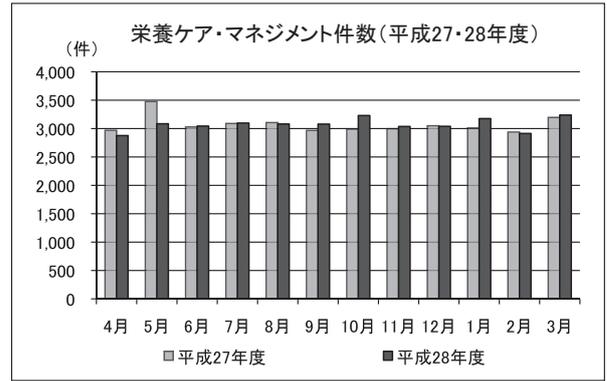
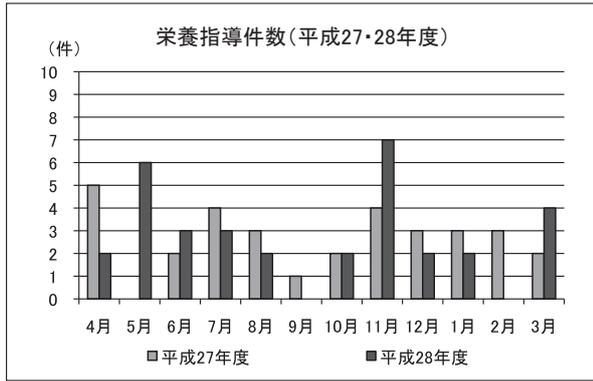
	平成27年度	平成28年度	前年度比
一般	7,757	7,580	98%
血液	9,866	11,014	112%
生化学	11,674	11,473	98%
免疫・血清	5,033	5,267	105%
生理	3,214	3,463	108%
外注	4,490	4,284	95%



■ 栄養管理室 業務実績

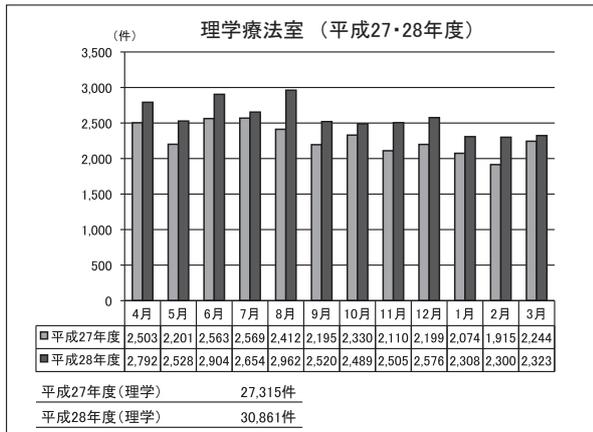
項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栄養指導	平成27年度	5	0	2	4	3	1	2	4	3	3	3	2
	平成28年度	2	6	3	3	2	0	2	7	2	2	0	4
栄養ケア・マネジメント	平成27年度	2,969	3,476	3,028	3,089	3,105	2,967	2,989	2,995	3,049	3,012	2,938	3,196
	平成28年度	2,877	3,085	3,044	3,097	3,081	3,079	3,230	3,037	3,040	3,176	2,914	3,238

■ 栄養管理室 業務実績

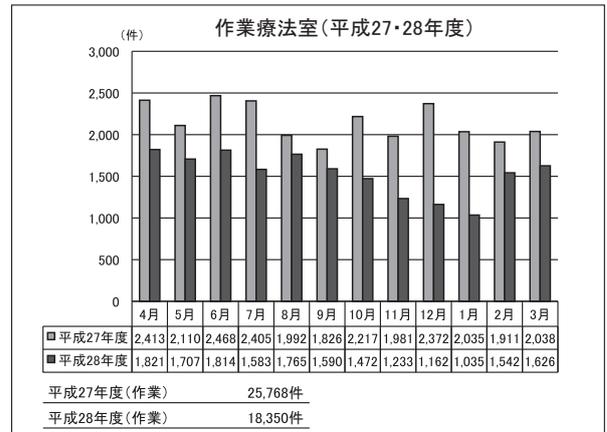


■ リハビリテーション課 業務実績

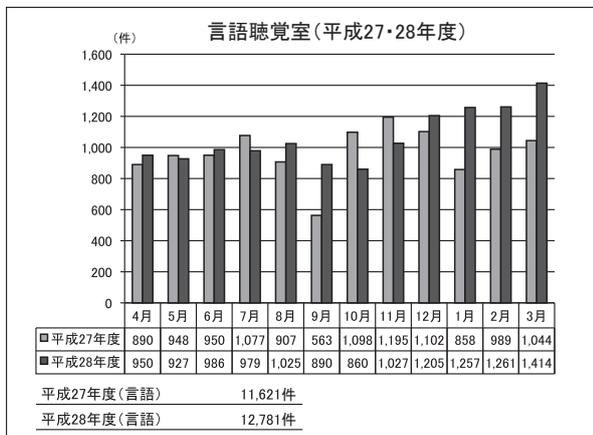
■ 理学療法室



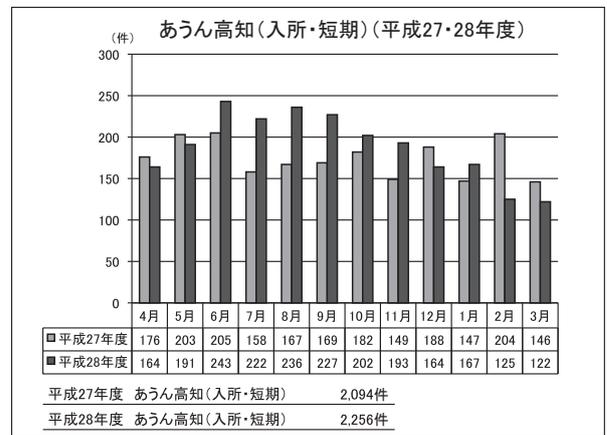
■ 作業療法室



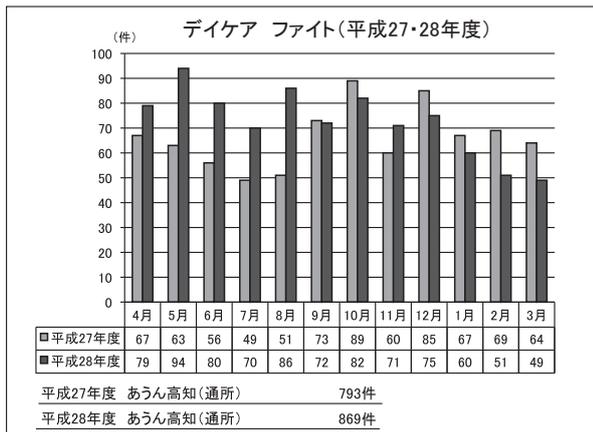
■ 言語聴覚室



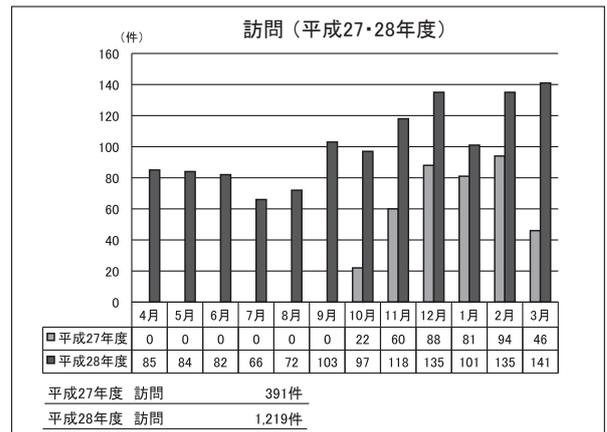
■ あうん高知(入所・短期)



■ 通所リハビリテーション デイケア・ファイト



■ 訪問リハビリテーション



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

在宅部

■ 居宅介護支援事業所「一宮」 業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成27年度	介護保険利用者数(人)	77	74	73	76	73	75	80	80	80	83	79	85	935	78
	介護予防利用者数(人)	14	13	12	12	12	12	12	12	13	13	15	16	156	13
平成28年度	介護保険利用者数(人)	89	90	91	91	95	94	111	109	112	106	106	101	1,195	100
	介護予防利用者数(人)	17	20	17	17	18	18	17	14	14	13	13	13	191	16

■ ホームヘルパーステーション高知 業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成27年度	延べ回数(回)	275	315	319	310	302	287	273	262	285	265	272	256	3,421	285
平成28年度	延べ回数(回)	259	247	259	271	272	236	234	197	163	156	128	147	2,569	214
平成27年度	利用者数(人)	38	42	41	40	42	44	45	44	44	45	43	45	513	43
平成28年度	利用者数(人)	42	39	38	37	38	37	34	29	23	21	17	17	372	31

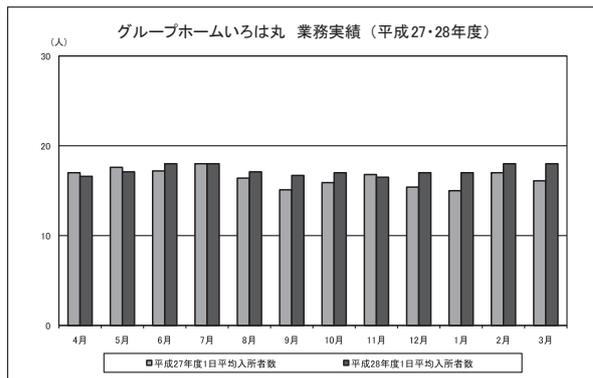
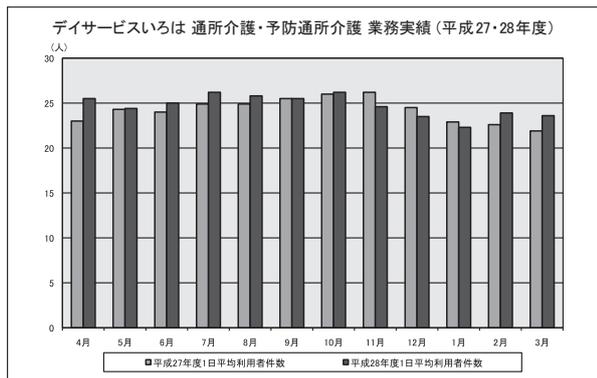
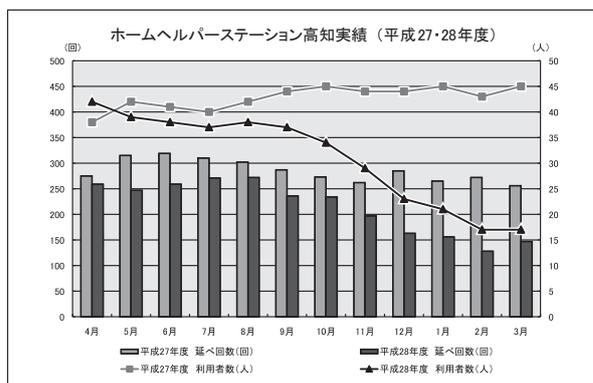
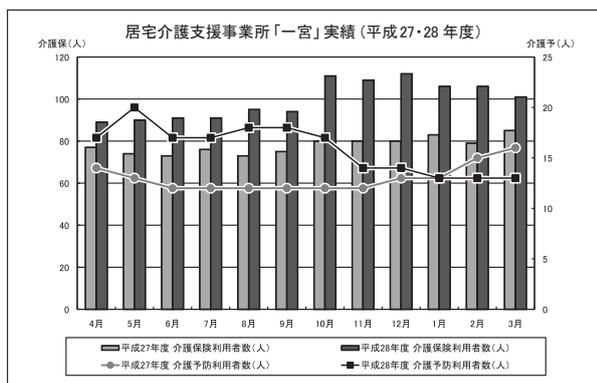
■ デイサービスいろは 業務実績

サービス種類：通所介護・予防通所介護

病棟形態	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所・ 予防通所介護	稼働率(%)	84.9	81.4	83.2	87.3	85.9	84.9	87.4	81.9	78.4	74.4	79.6	78.8	82.3
	延べ人数(人)	662	635	649	681	696	662	682	639	635	558	573	638	643
	1日平均 利用者数(人)	25.5	24.4	25.0	26.2	25.8	25.5	26.2	24.6	23.5	22.3	23.9	23.6	24.7

■ グループホームいろは丸 業務実績

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	92.0	95.2	99.8	100.0	95.0	92.8	94.4	91.9	94.3	94.6	100.0	100.0	96
延べ入居者数(人)	497	531	539	558	530	501	527	496	526	528	504	558	525
1日平均入居者数(人)	16.6	17.1	18.0	18.0	17.1	16.7	17.0	16.5	17.0	17.0	18.0	18.0	17.3



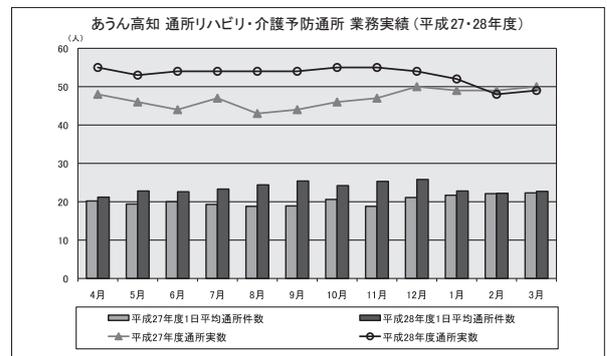
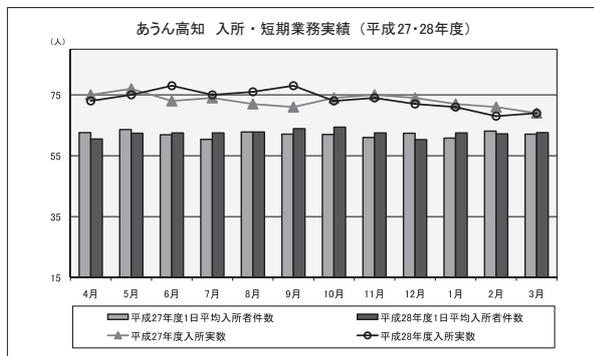
老人保健施設 あうん高知

■ あうん高知 業務実績 サービス種類：入所・短期

病棟形態	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所・短期	稼働率(%)	91.7	94.6	94.6	94.8	95.2	96.8	97.6	94.7	91.3	94.7	94.3	94.9	94.6
	延べ患者数(人)	1,816	1,935	1,874	1,939	1,947	1,917	1,996	1,876	1,868	1,937	1,742	1,942	1,899
	1日平均入所者数(人)	60.5	62.4	62.5	62.5	62.8	63.9	64.4	62.5	60.3	62.5	62.2	62.6	62.4
	在宅復帰率(%)	62.5	61.8	56.8	50.0	47.5	53.7	51.3	50.0	46.3	47.4	44.4	30.3	

■ あうん高知 業務実績 サービス種類：通所リハビリ・介護予防通所

病棟形態	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所・介護予防通所	稼働率(%)	60.7	65.2	64.6	66.6	69.8	72.6	69.0	72.3	73.7	65.0	63.3	64.8	67.3
	延べ患者数(人)	552	593	588	606	660	635	628	658	671	546	532	612	607
	1日平均利用者数(人)	21.2	22.8	22.6	23.3	24.4	25.4	24.2	25.3	25.8	22.8	22.2	22.7	23.6



▶ 院内発表会

三愛病院 平成28年度 院内研究会

開催日：2016年7月16日(土)
開催時間：13:30～16:00
開催場所：三愛病院 5階会議室

区分	演題・内容	部署・チーム名	研究者(発表者○)
発表	エンゼルケアにおける現状と課題 ～家族へのアンケートから見てきたこと～	エンゼルケア検討委員会	○山本 明公子
	感染管理ベストプラクティス導入の成果	看護部ICT	○中平 由佳、濱名 郁里、楠岡 弥生、菊地 綾 千光士 真由子、高岸 由佳、深田 順一
	訪問リハビリテーション三愛の取り組みと展望 ～訪問リハビリ始めました～	リハビリテーション課	○田島 一樹
	認知症高齢者を地域で支えた事例 ～地域のつながりの大切さと難しさ～	支援センター いっく出張所	○中司 梓
	用度業務から見る医療・事務用品の削減～ご協力の賜物計画～	総務課	○大山 裕、桑名 彩矢
	効果的な情報伝達と方法の見直し～目指せカルテ美人～	外来	○久保 由美、大西 真理、印藤 るみ、島本 裕子
	三愛病院における「病棟クラーク」の歴史(History)	クラーク会	○大島 のり子、竹倉 恵
看護師が個人として取り組む災害対策に関する実態調査	高知県看護協会 エキスパート 育成研修チーム	○印藤 るみ	

最優秀賞 リハビリテーション課 田島 一樹

優秀賞 エンゼルケア検討委員会 山本 明公子

三愛病院 平成28年度 看護部発表会

開催日：2016年12月17日(土)
開催時間：13:30～15:30
開催場所：三愛病院 5階会議室

区分	演題・内容	部署・チーム名	研究者(発表者○)
発表	外来看護ジェネラリストの育成	外来	○島本 裕子、濱名 郁里
	入院退院の業務をスムーズに行うために ～入院準備伝達表・退院時掃除チェック表の作成・活用～	愛2病棟	○三宮 秀一、宮本 清美、神原 法子、山中 真由
	安心してください！安全ですよ！～効果的な病衣交換実践～	愛1病棟	○佐々木 智砂、鎌倉 敬乃、森田 奈央子、田井 舞
	心も体もスッキリ タクティールケアを行って…	あうん高知通所	○田中 美絵
	口腔ケア技術の統一と向上の取り組み お化粧でいきいき！	愛3病棟共同研究者 あうん高知	○小笠原 佐千子、藤本 文恵、森本 里紗(言語聴覚士) ○高橋 真理、鈴木 由美

細木病院

細木ユティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

■ **診療部**

■ **耳鼻咽喉科**

□ 講演（講習会を含む）

1. 市川利恵：「補聴器相談医更新のための講習会、補聴器キーパーソン全国会議報告」、日本耳鼻咽喉科学会高知県地方部会、高知市、2016年12月4日

■ **看護部**

■ **愛2病棟**

□ 学会・研究会

1. ○谷山智砂、中平好昭、深田順一：「看護職・介護職で取り組むエンゼルケア」、四国老人福祉学会 第36回大会、徳島県美馬市、2017年3月5日

■ **外 来**

□ 学会・研究会

1. ○印藤るみ、左京ゆみ、小松加奈、河野さゆり、岡林哲子、井上正隆：「看護師が個人として取り組む災害対策に関する実態調査」、日本災害看護学会 第18回年次大会、福岡県久留米市、2016年8月27日
2. ○中平由佳、濱名郁里、楠岡弥生、菊地綾、千光土真由子、高岸由佳、深田順一：「感染管理ベストプラクティス導入の成果」、第14回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2016年8月28日
3. ○濱名郁里、酒井美枝、中平由佳、穂岐山あゆみ、福重カヨ：「在宅サービスとの連携 ～入退院を繰り返す糖尿病患者の一事例～」、第36回四国老人福祉学会、愛媛県穴吹市、2017年3月5日

■ **医療技術部**

■ **栄養管理室**

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 石山由香：「介護食士 3級 軟食について」、RKC調理製菓専門学校、高知市、2016年9月24日

■ **リハビリテーション課**

□ 学会・研究会

1. ○田島一樹、門脇貴代、濱名郁里、篠原雅幸、深田順一：「在宅療養を支える訪問リハビリの役割—入退院を繰り返す一事例—」、日本糖尿病学会 中国四国地方会第54回総会、高知市、2016年11月12日
2. ○田島一樹、門脇貴代、濱名郁里、篠原雅幸、深田順一：「在宅療養を支える訪問リハビリの役割—入退院を繰り返す一事例—」、第34回高知糖尿病療養指導研究会、高知市、2017年3月17日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 門脇貴代：「職場における腰痛予防対策～厚生労働省の指針をもとに～」、仁泉会 朝倉病院、高知市、2016年11月17日

■ **医療相談室**

□ 学会・研究会

1. ○浦中萌和、山中 冴、山本明公子、澤田恵里：「介護老人保健施設における支援相談員の役割～私たちが大切にしていること～」、四国老人福祉学会、2017年3月5日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 山本明公子、澤田恵里：「介護保険制度と三愛病院について」、地域交流デイサービス、一宮ふれあいセン

■ 在宅部

■ 居宅介護支援事業所「一宮」

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 和田真樹：「退院調整看護師育成研修フォローアップ研修」、高知看護協会、高知市、2016年10月22日

■ デイサービスいろは

□ 学会・研究会

1. ○竹口伸也、大野裕美、千頭彰乃、小松雅理：「もの作りの風土を活かした認知症ケアの取り組み～臨床美術に取り組もう～」、四国老人福祉学会 第36回大会、徳島県美馬市、2017年3月5日

□ 講演（講習会を含む）

1. 新谷真紀子、竹口伸也：「新聞エコバッグづくり」、一宮ふれあいカフェ（認知症カフェ）、有料老人ホーム 千金一日、2016年5月10日
2. 竹口伸也（高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所と合同参加）：「新聞エコバッグづくり」、一宮西長寿会老人クラブ 地域交流デイサービス、高知市一宮ふれあいセンター 2階会議室、2017年3月29日

■ 高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所

□ 講演（講習会を含む）

1. ○平瀬 遥、○中司 梓：「認知症の基本、体調を整え元気な毎日を過ごす7つのポイントの講話」、一宮西長寿会老人クラブ 地域交流デイサービス、高知市一宮ふれあいセンター 2階会議室、2016年6月1日
2. ○平瀬 遥、中司 梓（あうん高知と合同参加）：「認知症に関する寸劇」、一宮西長寿会老人クラブ 地域交流デイサービス、高知市一宮ふれあいセンター 2階会議室、2016年9月30日
3. ○平瀬 遥、○中司 梓（高知市社協と合同参加）：「認知症の方への対応と地域の集いへの参加の啓発」、一宮西長寿会老人クラブ 地域交流デイサービス、高知市一宮ふれあいセンター 2階会議室、2016年12月21日
4. 平瀬 遥、○中司 梓：「地域での見守り活動」、愛宕町2丁目東町内会、高知市 栄田公民館 1階会議室、2017年3月19日
5. 平瀬 遥、中司 梓（DSいろはと合同参加）：「新聞エコバッグづくり」、一宮西長寿会老人クラブ 地域交流デイサービス、高知市一宮ふれあいセンター 2階会議室、2017年3月29日

□ 表彰

1. ○平瀬 遥：「一宮交番ふれあいまつり 感謝状」、一宮交番連絡協議会・高知東警察署、高知市 マルナカ一宮店 駐車場、2016年10月15日

■ あうん高知

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 小松雅理：循環器疾患看護、高知県医師会准看護学院、高知市、2016年6月7日、14日、21日、28日
2. 小松雅理：「リスクマネジメントあれこれ」、高知県老人保健施設協議会研修委員会、高知市、2016年10月15日

3. 小松雅理：「いざという時、福祉避難所に誰が逃げ込める？」、一宮コミュニティー推進会議、一宮小学校区
防災協議会、高知市、2017年3月7日

通所リハビリテーション デイケア・ファイト

□ 講演（講習会を含む）

1. 竹中 誠：「認知症寸劇」、一宮コミュニティ計画推進市民会議、高知市、2016年8月9日

▶ **実習・研修生** (2016年4月1日～2017年3月31日)

依 頼 元 名	延べ人数
看護部（愛1病棟）	
高知県医師会准看護学院・成人老年看護実習（2年生）	23
高知県医師会准看護学院・基礎看護実習（1年生）	14
（愛2病棟）	
高知県医師会准看護学院・成人老年看護実習（2年生）	20
高知県医師会准看護学院・基礎看護実習（1年生）	18
（愛3病棟）	
高知県医師会准看護学院・成人老年看護実習（2年生）	32
高知県医師会准看護学院・基礎看護実習（1年生）	25
高知福祉専門学校介護福祉学科・介護実習I（2年生）	2
医療技術部（栄養管理室）	
高知学園短期大学 生活科学学科	2
RKC調理製菓専門学校	2
（リハビリテーション課 理学療法室）	
土佐リハビリテーションカレッジ	2
（リハビリテーション課 作業療法室）	
土佐リハビリテーションカレッジ	1
（医療相談室）	
高知県立大 社会福祉学部（3回生）	2
美作大学 社会福祉学科（3回生）	1
在宅部（デイサービスいろは）	
高知学園短期大学 看護学科（3年生）	6
あうん高知（入所）	
高知大学医学部（1年生）	21
（通所リハビリテーション デイケア・ファイト）	
高知大学医学部（1年生）	21

細木病院

細木コミュニティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会